

# 久留米大学附設高等学校同窓会 会報



久留米大学附設高等学校同窓会事務局  
〒839-0862 久留米市野中町20-2  
TEL 0942-44-2222  
FAX 0942-44-8257  
◎卒業生数 12,885名

同窓会ホームページ <http://fusetsu-dosokai.com/> 順次更新していますので是非ご覧ください。



附設のシンボル『思考廻廊』 6回生のパネル／高良山下の学園で育んだ我等の若き青春の夢を更に大きく膨らませて永遠に受け継いで欲しい

## 目次

- 挨拶 同窓会会長 高橋友作 ..... 2
- 挨拶 学校法人久留米大学理事長／久留米大学学長 永田見生 ..... 3
- 挨拶 附設高等学校校長 町田 健 ..... 4
- 挨拶 後援会長 木下 明・校歌 ..... 5
- 支部だより 全国10支部の活動 ..... 6
- 海外だより 山下健二・栗原宏和・松寄貴洋 ..... 20
- 還暦の会 池 郁生 ..... 23
- 高良随想 渡辺紀雄・中村琢磨 ..... 24
- トピックス 大石弘利 ..... 26
- 会務報告 ..... 27
- 卒業生への支援 就職セミナー ..... 32  
新人歓迎会 ..... 33
- 在校生への支援 進路講座 ..... 34
- 大学だより 東京大学／熊本大学 ..... 37
- 母校のいま 進学状況報告 ..... 41  
生徒会長 ..... 42  
文化委員長 ..... 43
- 寄付・広告 ..... 44
- HPご利用の手引き ..... 128
- 編集後記 同窓会室の紹介 ..... 130



同窓会会長挨拶

## 新しい時代を迎え、 更に活発な同窓会活動を展開して行こう。

同窓会会長 高橋友作 (19回生)

同窓会会員の皆様には日頃より温かいご支援を賜り心よりお礼を申し上げます。

お陰様で同窓会活動は年々活発になって来ており、特に若い世代の参加が増加してきていると感じられるのは、とても喜ばしいことでもあります。

さて、今年は5月1日に元号が令和に改まりました。年の途中ではありましたが、まるで新年を迎えたような新鮮な気持ちを覚えました。平成時代の我が国を振り返れば、幸いなことに戦争こそ無かったものの、大地震や記録的な豪雨などによる自然災害が多発し多くの人を苦しめました。令和の時代には、かかる災害の少なからんことを祈るばかりです。

一方、経済面ではバブル経済が崩壊、平成元年(1989年)には3万8915円87銭の史上最高値を付けた日経平均株価が、リーマンショックなどの影響で一時は7000円を割り込むような激動の時代でした。こういった不確実で急速にグローバル化が進む経済状況の中、企業の人件費抑制志向などから非正規雇用率が増加、フリーターという言葉も生まれて、出生率低下などとともに社会的にも大きな問題となりました。このような平成時代に起こった事象や変化は、おそらく令和時代にも続くのではないのでしょうか。

このように急速なスピードで変化していく時代の中で同窓会は、どのような役割を期待されているのでしょうか?私は同窓会の本質的なところは時代に流されることなく確りと維持しつつ、それを実現していく施策などは時代に適応した形に変化させ新しい課題を見つけ解決していくべきであろうと考えています。正に「不易流行」です。

同窓会の目的は、ご高承のとおり、「会員間の互助親睦」と「母校の発展」を図ること、にあります。この点は今後も些かも変わることはありません。しかし、それを実現するために実施する施策や具体的方法については、会員の皆様の知恵を結集して新たに創出し、これまでの取り組みについても改革、改善していかなければならないと思います。

たとえば、大学に進学した会員に対する各支部を主体とする働きかけである「新人歓迎会」などは同窓会にとって、大変に重要な取り組みであると考えていますが、これまで以上に充実させていく方法を考える必要がある、同窓会本部としては及ばずながら支援して行きたいと思っています。また、東京支部が主体ですが同窓会で実施している「就職セミナー」については、雇用環境が変化し就職活動のスケジュールは大きく変化しつつあります。この変化を見極め、それに対

応した新しい取り組みが今後、検討されるものと期待しています。

さらに、回生を超えた交流、すなわち「タテの繋がり」は、各地のゴルフ大会や懇親会のほか既に多くの企画が実行され成果が上がっており更なる発展が期待されますし、企業内同窓会組織などについても年々立ち上げられています。「附設同窓生は群れない」が定評ではありますが、変化のスピードが速く競争が激化している現代においては、附設高校同窓生であることは大きなリソースであるという観点から同窓会会員同士の繋がりは再認識されるべきでしょう。

そういった面に少しでも資することとして、同窓会においては「HPの刷新」と「WEB名簿の本格的スタート」を行ないました。HPは同窓会内のインフラとして重要なものであり今回の刷新で、より円滑な情報共有が可能となったと思います。また、WEB名簿については漸く本格的なシステムが出来上がったものと考えています。今後、会員の皆様ご自身が、このWEB名簿を活用いただき中身を充実させていけば、検索機能によって会員間のタテヨコの交流も一層活発となるものと期待しています。

ところで、母校に目を向ければ、附設高校の大学入試における大躍進はご高承のとおりで、改めてここに記す必要もないことではありますが、同窓会としても誠に喜ばしく誇らしいことであり、心からお祝い申し上げます。同窓会としては、今後も後援会とも協調しつつ、母校の更なる発展を微力ながらサポートして行きたいと考えています。

学校法人久留米大学創立90周年記念事業募金に関しましては、附設高校同窓会として2000万円の寄付を目標に、一昨年10月から取り組んでまいりました。今年の3月末で終了いたしました。会員の皆様からは478万7000円(194件)の寄付を行なっていただきました。この他、同窓会会員であるものの久留米大学関係者として行なわれた寄付が1187万5000円(102件)あり、合計では1666万2000円(296件)という結果でした。

ご協力いただきました会員の皆様には、この場をお借りして深くお礼申し上げます。

今年度も皆様に同窓会報第26号をお届けできることを嬉しく思います。末筆乍ら、発行するに当たり、寄稿いただいた方々、広告を掲載いただいた皆様、また編集などの地道な業務に当たられた方々に対し、心より感謝申し上げます。結びとさせていただきます。



理事長・学長 御挨拶

## 日本を輝く国にするための人材として 活躍されることを祈念致します。

学校法人久留米大学 理事長  
久留米大学 学長 永田 見生

日本の近代史では、第1期は明治維新、第2期は太平洋戦争後の高度成長期、そして現在は、グローバルな大競争時代の第3の変革期と言われ、情報通信技術(ICT)の急激な進化により、グローバルな環境で、情報、人、組織、物流、金融など、あらゆる「もの」が瞬時に結び付き、相互に影響を及ぼし合う新たな状況が生まれています。そして、IOT、ロボット、AI、再生医療といった人間の生活のみならず、人間の在り方にも大きな影響を与える、新たな科学技術と社会との関係の再考が求められ、経済・社会の構造が日々大きく変化する「大変革時代」とも言うべき時代を迎えています。これからは、ITやロボット技術、AIの進歩、発展により、2040年頃には遠隔ロボットが人のアバター(分身)として活躍し、2050年頃には、AIが人間の知性を超えると予測されています。かかる時代に生き、諸君が役に立つ人物として評価されて活躍するには、「時務を識る俊傑」と呼ばれる「才知などが並の人より優れている人物」として成長することが必要です。世の中は、変革を担う優れた人物の登場を求めています。つまり、時代の動きを明察し、英知、胆識をもって新しい事態に対処しうる人物になることが極めて重要だと、識者は言っています。皆さんは、難関の附設中学あるいは高校に入学した素晴らしい能力を持っている英才です。そして、優秀な先生からの教育、自分自身の努力、仲間とのふれ合いにより、知識と人間力が磨かれ、附設を巣立ちます。皆さんは、大学では時代の変化を先取りし、柔軟に素早く変わって、新時代に活躍できる「人物」になる為に、高い志

を持って学業に励んでください。グローバル化が進展する中で、国が現在の大学に求める使命は、教育の質的転換、研究を通じたイノベーションの創出、地方創生の中核となる地方を、また、日本を支える人材の育成、高度な教育研究活動の推進等による国際競争力の向上、そして、グローバル人材を育成する拠点となることです。さらに、大学発ベンチャーの推進など、大学への多岐に渡る期待が以前に増して増加しています。多くの大学が、こうした社会の期待や学術研究の進展に機動的に対応すべく精力的な取り組みを重ねています。諸君は、時代の変化を認識し、国の行く末を担っている世代であることを自覚し、強い決意を持って、自分自身が人間として成長することを目標にしてください。そして、世界のリーダーとして一目置かれるような新しい日本を創造するのだというビジョンを掲げることができる学識を養ってください。卒業生の皆さん！校歌にある「真善美」、すなわち、「人間の理想としての普遍妥当な価値」が何であるかをしっかりと見極めて確固たる自己を形成し、世の中ため、人のために尽くすことを任務とする社会人として生きて行く土台を築いてください。卒業生の皆さんが元気であり、大学卒業後には、修羅道の世を救うべく大使命を果たす人物となり、日本を輝く国にするための人材として活躍されることを祈念致します。

(この寄稿文は、2019年3月の卒業式で告辞した内容です。)



校長御挨拶

## 附設高校は来年度に 創立70周年を迎えます。

久留米大学附設中学校・高等学校校長  
(高校23回生・中学1回生)

町田 健

附設高校が創設されたのは1950年で、私はその7年後に生まれ、かつての甘木市、現在の朝倉市で育ちました。小学生の頃ですから、1965年前後でしょうか、久留米に附設高校という学校があって、そこでは男子ばかりの生徒たちが刻苦勉励しているという話を親に聞かされ、そんな学校に行く大変なのだろうという印象を漠然と懐いていました。ところが、1969年にその附設に中学が設置されることになり、私はその勉強で大変そうな学校に、中学の1回生として入学することになりました。実際、附設中学と高校では、私も熱心に勉強しました。ただ、知的能力の高い同級生たちに恵まれていたお陰で、勉強するのは意外に楽しくて、辛いと思ったことはありません。今でもそうですが、当時の先生たちも労を惜しまずに私たちに指導してくださり、その結果、全国的な観点からしても誇るべき学力を身につけることに成功しました。

附設中学1回生、高校23回生が高校を卒業したのは1975年です。その前年までも、附設高校は非常に優れた進学実績を上げていました。2018年度までで、九州大学への最も多数の合格者数を記録したのは、私たちが卒業する前年の1974年のことでした。ただし、東京大学への合格者は8名のみでした。しかし、1975年は東大への合格者数が30名であり、附設の名が一躍全国に知られることとなります。すなわち、中学校の創設が、附設にとって重要な転換と飛躍をもたらしたので

す。

そして2019年、東京大学への合格者数が50名、九州大学医学部への合格者数が25名という、まさに輝かしい成果を手にすることが出来ました。本年は、中学から入学してきた女子生徒が高校を卒業し、男女共学化が完成を見た年です。男子校から男女共学校へという、附設にとっての重大な変化が、中学の創設と同様の、いやそれを凌駕する大いなる転機を、やはり本校にもたらしたのだと考えて、恐らくは間違いのないでしょう。

教育体制の重要な改革が、このようにいずれも期待通りの成果を上げたという事実は、その改革が正しいものであったということの雄弁な証左です。しかしもちろん、改革をすれば常に望ましい成果がもたらされるというものではありません。正しい改革が実現したのは、本校が創設されて以来一貫して受け継がれてきた、優秀な生徒を入学させ、自立した精神を逞しく鍛えながら、知性の高みへと導く教育の伝統があるからです。今年本校が享受した成功は、決して僥倖などではなく、改革を豊かに実らせるべく着実に実行されてきた優れた教育と指導の賜以外ではありません。附設高校は来年度には創立70周年を迎えます。今後も附設の教育が同窓生にとって誇らしい実績をもたらすものと確信いたしております。



後援会長挨拶

## 母校の近況について

後援会長 木下 明 (37回生)

後援会会長を務めさせていただいております木下明です。平成9年に弁護士登録後、平成12年から福岡市内で法律事務所を開設し、今日に至っております。

長男が中学2年生の時に後援会役員となり、長女が現在高校2年生、後援会役員として7年目、後援会長として3年目に入りました。自分が学生として過ごした6年間を超えて母校にかかわることとなり、不思議なご縁を感じております。今年、学生時代に直接お世話になった白水先生が高校教頭に、緒方先生が中学教頭に就任されました。

同窓会の皆様も既にご存じのことかと思いますが、平成最後の卒業生である67回生は、過去最高ともいべき進学実績を打ち立てました。完全共学化という大変な改革を行い、その最初の学年においてこのような

成績を収めるについては、先生方の相当の努力があったことと思います。同窓生としても、保護者としても、母校がより素晴らしい学校へと成長しているのを間近に見ることができ、大変誇らしく、そしてうれしく思っております。

同窓生の皆様には、毎年進路講座にご協力いただき、様々な分野に進んだ先輩の立場から刺激あるお話をいただいております。今やらなければならない勉強、受験の先の世界にふれることは、生徒たちが将来の目標を定めるにあたって極めて良い影響を与えているものと思われまじ、実際に生徒たちの評判も上々のようです。是非、今後ともより一層のご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願い致します。

## 校歌

久留米大学 附設中学校  
附設高等学校 校歌

大石亀次郎 作詞  
藪 文人 作曲

一、高良山下の学園に

万朶の桜咲きそろい  
若き血潮の高鳴るを

見ずや 希望の揺籃地

二、江月冴えて 悠久の

流れは遠し 千歳川  
高き彼岸の光明を

見ずや 試練の理想郷

三、修羅道の世を救うべく

平和の偉業 任として  
築く不朽の真善美

見ずや 我等の大使命

全国各地で活発な同窓会活動が繰り広げられています。

この『支部だより』コーナーでは、  
各支部の活発な活動報告をお届けします。

●福岡支部●

## 北九州OB会が新規に発足し、 県内同窓生のネットワークが更に充実しました。

福岡支部長 実藤 光二郎 (26回生)

福岡支部では、各回生の代表世話人会に加えて、県内の各地でのOB会活動により、県内同窓生のネットワークを支えていただいております。特に、今年は、有明・筑後・久留米・朝倉・筑豊の各OB会に加え、

北九州OB会が新たに発足しました。各OB会の自主性と特色を尊重しつつ、福岡支部としてバックアップしてまいりたいと考えております。

●有明OB会●

2018年10月27日(土)開催 於:大牟田市「だいふく」

## OB会伝統の「卓話」にまた新しい歴史が刻まれました。

「卓話」の演題は、「臭いを放つイボガエル〜ツチガエルの分泌物に対する同種他個体の反応」というユニークなもの。56回生の銀行員、豊田晋司氏に務めて

いただきました。OB会伝統の「卓話」にまた新しい歴史が刻まれました。



● 筑後OB会 ●

2018年11月10日(土)開催 於:筑後市「日若屋」

今年は、6回生福本先輩が栄えある傘寿を迎えられました。

和気藹々の筑後OB会は、傘寿を迎える先輩の方をお祝いすることが恒例。今年は、6回生福本先輩が栄えある傘寿を迎えられました。



● 久留米OB会 ●

2019年1月26日(土)開催 於:久留米市「マリターレ創世」

80名を超える参加となった久留米OB会は、多士済々の賑わいとなりました。

80名を超える参加となった久留米OB会は、39回生田上和宏氏による「Vファーレン長崎の地域貢献」、22回生松雪恵津男氏による「Jリーグについて」に加え、若手同窓生によるPRタイムと多士済々の賑わいとなりました。



● 朝倉OB会 ●

2019年2月9日(土) 於:朝倉市「ニュー松屋」

恒例の近況報告は尽きること無く。

「2月14日は何の日?」が恒例の朝倉OB会。

これまた恒例の近況報告は尽きること無く、また酒も尽きること無く。あっという間にお開きの時間となりました。



## ●北九州OB会●

2019年3月9日(土) 於:ステーションホテル小倉  
北九州OB会が新規に発足しました!!

北九州OB会が新規に発足しました。サロンド北九州の流れを汲みつつも、参加者45名の約3分の1が30回生以降の若手が占め、新たな船出に相応しい会とな

りました。幹事の秋本さん・永田さん(ともに34回生)ありがとうございました。来年以降も宜しくお願いいたします。



## ●筑豊OB会●

## 2019年開催に向け準備中!!

2018年8月4日(土)、直方市佐賀屋で直轄部会納涼祭が開催されました。

全体総会は、前回開催(2018年3月7日)より少し

時間が空きましたが、2019年の開催に向け準備を進めています。

以上の通り、福岡支部内ではほぼ2ヶ月に1回のペースでOB会が開催されています。  
回生を越えて附設同窓生としての親睦を深めるのはもちろんですが、地域内の先輩・後輩の繋がりの中で、ビジネスの幅が広がる機会ともなっています。  
開催スケジュールについては、同窓会HP等で適宜ご案内いたしますので、是非ご参加下さい。



## 令和元年度 定期総会・福岡支部総会報告

幹事長 佐藤 茂 (30回生)

令和元年7月14日、博多祇園山笠のフィナーレ追い山を前日に迎えて騒がしい福岡の街天神で、令和元年度久留米大学附設高等学校同窓会定期総会・福岡支部総会を開催しました。

今回から会場をソラリア西鉄ホテルに移しました。まず、15時より福岡支部総会を開催しました。司会は幹事学年30回生の梁井信司君が務め、実藤光二郎支部長(26回生)の挨拶の後、松雪恵津男氏(22回生)が議長に指名され、議事を進行しました。支部長が活動報告、昨年度の幹事29回生山本光氏が会計報告をし、承認されました。

引き続き、定期総会を開催しました。高橋友作同窓会長の挨拶の後、砂場泰浩副会長(21回生)が議長に指名され、物故者21名への黙祷の後、中村和徳副会長(27回生)が平成30年度活動報告をし、広告募集が堅調に進んだことへのお礼と過日開催された理事評議員会で出されたペンディング事項についての回答がありました。岸哲司副会長(22回生)が決算報告、予算説明を、伯川志郎監事(15回生)が監査報告をし、いずれも承認されました。また今年度で退任される伯川志郎監事と吉本幸治副会長(28回生)が退任の挨拶をし、新たに副会長に就任される古賀善彦氏(23回生)、吉田清隆氏(23回生)、新監事の矢加部浩一氏(25回生)も挨拶しました。

無事総会が終了した後、東京外国語大学教授の松永泰行君(30回生)に“昨今の中東情勢と日本”というタイトルで講演してもらいました。高校での授業、あるいは大学入学や海外留学などの彼の人生におけるイベントと、イラン革命やイランイラク戦争、ニューヨークなどで起きたアメリカ同時多発テロ事件をはじめとした中東にからむ事件を見事に絡めた話は興味深いものでした。

ホルムズ海峡で日本籍タンカーが襲われたこと、安倍首相がイランを訪問したことなどが重なった時期ということもあり、沢山の質問が飛び交った熱い講演会となりました。

17時過ぎより懇親会が開催されました。実藤支部



長、高橋会長の挨拶の後、町田校長より来賓を代表してご挨拶があり、附設高校が2025年に創立75周年を迎えることについてのお知らせがありました。喜多屋社長の木下宏太郎氏(29回生)提供の樽酒で鏡開きを行った後、吉川敦名誉校長のご発声で乾杯となり会は始まりしました。

今年度より会場を変更したことで、広いスペースで開催することができ、多くの先輩方に着席いただけたことに安堵いたしました。また梁井信司君と実妹の中西久美さんによる息の合った司会は見事なものでした。

最後は恒例の校歌斉唱、次期幹事長森田昇氏(31回生)の万歳三唱、私の閉会挨拶で盛会のうちに終了いたしました。連休の中日にもかかわらず、沢山の同窓生にご参加いただけたこと、広告寄付の願いを快く引き受けていただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

この日のために一生懸命に動いてくれた同級生と36回生東京幹事団との経験は一生の思い出になることとします。私が1お願いしたら10になって返ってくる。「附設生とはとんでもなく凄い集団だ」と改めて感じた幸せな1年でした。



## ●北海道支部●

令和元年6月22日 於 ビヤホールライオン狸小路店  
第31回 久留米大学附設高校北海道支部同窓会

北海道支部長 檀浦龍二郎 (20回生)



北海道も次第に暖かくなり、1年で一番いい時期を迎えました。今年も例年どうり北海道支部同窓会を開催しました。報告にさきだち、昨年9月の胆振東部地震に際しましては、いろいろご心配をおかけしました。札幌は震度5強で、2日ほど停電、断水になりましたが、支部会員の方にも大きな被害もなくすみました。メール等いただき、この場をかりてお礼申し上げます。さて昨年の同窓会は高橋会長、小田東京支部長にもおいでいただき、盛りあがりました。今年は、松永(3) 松岡(18) 檀浦(20) 西見(20) 中島(35) 草場(41) 桜木(43) 古瀬(47) 白水(55) 坂本(64) 緒方(64) 11名の出席でした。他に富松昌生(3)さんは昨年亡くなられたそうです。古賀俊勝(16)さんは、室蘭工大を退職されて5年だそうです。その他舟津仁之(20) 田中 緑(62) 岡本稜大(64) 黒川大雅(65) 安河内隆仁(64)さんより欠席の返事がありました。今年は北大に2名合格されていますが、都合で欠席のようです。3月に卒業された方も何人かおられますが、道内に残る方は少ないようです。また昨年、角 泰雄(33)さんが

旭川医大消化管外科教授に就任されました。さて会のほうは北海道定番のジンギスカンとビールで、煙まみれになって現状報告、最近の話題に花を咲かせました。末永義円(2)さんは出席の予定でしたが、体調不良で欠席。松永碩幹(3)さんはバイク大好き、松岡高博(18)さんは新たに北星記念病院をスタート、中島泰志(35)さんはトライアスロン、草場鉄舟(41)さんは日本プライマリケア連合学会の理事長、桜木 修(43)さんは矯正歯科盛業中、古瀬康鉦(47)さんは2年前より弁護士事務所開業、白水貴大(55)さんは蚊の研究、阪元和弥(64)さん、緒方富岳(64)さんは大学院へ進学。今までは遠方でもあり予算の関係もあり、5年に一度本部にお声掛けしていましたが、今後はもう少し頻繁に声掛けしたらどうかという意見が出ています。ただどの支部でもそうでしょうか、北海道に來られる方、離れる方から連絡がなかなかなく、会員の把握が十分できないのが問題点です。北海道にも支部がありますので、積極的にお声掛けいただき、活用してください。

## ●中部支部●

# 中部支部の第4回総会が2018年11月24日土曜日に 名古屋駅直結ルーセントタワー2階の居酒屋で 開催されました!!

中部支部長 石井三記 (21回生)



今回から中部支部総会の呼びかけは、ハガキとメールのほかFacebookの同窓会ページへ投稿するなどしてみました。出席人数は、ちょうど連休中になっていたこともあってか、11名ではありましたが、8回生の前田篤孝大先輩をはじめとして、各人の近況報告などおこない、大いに親睦を深めることができました。じつは2018年3月の時点では、名古屋大学に2名の合格情報がありましたが、残念ながら在籍していないことがわかり、初の学生歓迎はお預けとなりました。今後

は若い同窓会員にも積極的に呼びかけてゆきたく思っているところです。末尾になりましたが、今回、高橋友作同窓会長が駆けつけてくださり、附設の現況や全国で活躍されている同窓生のことも語っていただきました。出席者の近況報告にもありましたが、「附設のときの経験が自分の人生の核になっている」とのことばが心に染み入るなか、午後6時半からの中部支部総会は午後9時近くまで盛り上がり、来年の再会を誓い散会いたしました。

## ● 関西支部 ●

## 今回は趣向を変え、 座敷の大広間で席を囲む、和食の会と致しました!!

関西支部長 甲斐田 郁 夫 (21回生)

関西支部総会は、平成30年11月30日(金)夕刻から、ヒルトンプラザ 大阪本店「四季自然喰処 たちばな」で行われました。

従来、立食パーティーで行って参りましたが、今回は趣向を変え、座敷の大広間で席を囲む、和食の会と致しました。当日は社会人21名、関西地区の大学生21名の計42名での盛会となりました。座敷で着席での会は初めてのことであり、座の移動も困難なことから、皆さんに広く打ち解けて会話をさせていただけるのか心配しましたが、会の進行につれ、いわゆる居酒屋状態となり、あちこちで老若入り混じった会話が弾むのを見て安心致しました。

会の終盤には、学生監事に手配いただいたビンゴゲームを行い、今までとは一風変わった形でのお開きとなりました。当日の集合写真を添付致しますが、このような形式を取るのも一計かと思っております。

学生監事の吉田龍弥(京大法)さんと廣田律(京都府立大)さんには、ビンゴ商品の購入や会費徴求等、何から何までご尽力いただきました。さらに、廣田さんは女性会員に参加をお勧めいただいたようで、当日5名の方に参加いただきました。ご両人には感謝の言葉しかございません。本当にありがとうございました。又、支部総会開催にあたり同窓会本部からいただける祝い金の額を、今回から大幅に増やしていただき、初めて赤字を見ることなく終えることができました。同窓会本部の御配慮に感謝申し上げます。

本年6月28日(金)には、京都で大学新入生の歓迎会が、前出の吉田さん、廣田さんの手で計画されております。思い起こせば一年前、平成30年6月30日(土)は川嶋前会長の告別式当日でございました。改めてご冥福をお祈りするとともに、ご遺志を継ぎ同窓会活動に活かしていくことをお誓いして、報告を終えます。



## 中四国支部 2018年度活動報告

中四国支部長 今田忠則 (19回生)

### 1.平成30年7月豪雨(気象庁命名)

広島市、東広島市、呉市、三原市の3日間の雨量約450mmで土石流による、土砂崩れ5,000か所以上、住宅被害38,000戸、死者100人以上。

また倉敷市真備町の高梁川支流小田川(右岸)決壊で住宅被害14,000戸、死者50名以上と今までに経験したことのない大災害を被りました。

未だに爪痕はたくさん残っており、私の知人にも親御さんが亡くなられた方がおり他人事ではおれない状況です。

お悔やみ申し上げます。

真砂土が未だに1m堆積し田植えが出来ず農家を廃業しようかという方もたくさんおりますし、私も倉敷でホテル建設を担当していましたが小田川を介して被災地の反対側で、もし左岸が決壊していたら水に浸かっているところでした。

このような年でしたので、恒例の8月暑気払いは取り止め、2018年度の活動としては12月忘年会のみとなりました。(写真参照)

### 2.来広者

4月に4回生の日野氏(元広島在住)が九州から来広され、2回生の森先生が対応されました。

5月に19回生の山口氏が同じく九州から来広され同期の私に対応しましたが、楽しいひと時を過ごさせていただき、これが本当の旧交を温めるということだなあと感じました。

### 3.トピックス

活躍されている同窓生を2名紹介します。

#### ◆丸山達也氏(36回生)

- 4月の選挙で丸山達也氏が島根県知事に当選。
- 6月に島根県庁知事室に挨拶に行き同窓会に多大な理解をもらい支部総会等出席も承諾。

#### ◆田代 聡氏(28回生)

- 4月に広島大学原爆放射線医学研究所の所長就任
- 次期中四国支部長と私が公言しております。



## ● 佐賀支部 ●

## 年 1 回、佐賀支部会と芙蓉医会を開催 !!

佐賀支部長 三 根 茂 (17回生)

## ◆ 平成30年度佐賀支部会

日 時：8月25日(土) 18:00~20:30

場 所：佐賀市 アパホテル佐賀駅南口「ぎんざ亭」

例会では、佐賀大学農学部特任准教授川添嘉徳(35回生)氏に「海から得られた毒・薬」と題し講演して頂きました。海の生物が作り出す天然物には化学構造の妙があり、天然物化学生成に応用されています。魚介類が有する天然化学物質の多くは自らが作り出したものではなく、有毒の微生物やプランクトン等を捕食した食物連鎖の結果蓄積されたものです。ふぐ毒(テトロドトキシン)パリドキシン毒(最大の分子構造を持っている)の特性について、また海綿由来のエリブリンが乳癌などの抗がん剤(ハラヴェン)として応用されていることなどについて解説されました。

懇親会では、来賓の町田健学校長および同窓会副会長吉本幸司氏より附設高校および同窓会の近況を伺いました。また佐賀市出身の江頭有朋理事(熊本)より令和元年度同窓会定期総会(7月14日西鉄ソラリアホテル)への出席依頼がありました。今回の出席者は13~35回生19名で、若い世代の支部会員の参加をお待ちしています。

なお現支部長と太田勘評議員は3期6年で退任しますので令和2年3月迄に世話人会で新支部長と評議員を選出します。ご協力よろしくお願いたします。

## ◆ 第30回芙蓉医会(佐賀県在住医師同窓生の集まり)

日 時：平成31年2月8日(金) 19:00~21:30

場 所：佐賀市 おおしま

佐賀県医師会専務理事志田正典(22回生)氏に「意外に知られていない医師会活動」の演題で講演して頂きました。氏は私が知る限り10数年来執行部に在籍され、現在は会長、副会長(2名)に継ぐNo.4の専務理事を務められています。理事職制として経理、生涯教育、看護学校・医療従事者、医事調停を担当され、それぞれの職制で日本医師会、九州医師会連合、県医師会が関連する会議・講習会等に出席されています。ご自身の診療の合間に多忙極まりない激務をこなされています。ほとんどボランティアに近い活動に感服します。講演を依頼した時点では医療法人志田病院理事長でしたが、平成31年1月より医療法人志田内科(無床診療所)に施設形態を変更されました。なお、県医師会執行部には貝原良太(29回生)・島内義弘(31回生)・枝國源一郎(33回生)各氏も所属し活躍中です。

芙蓉医会事務局は佐賀大学医学部内科学皮膚科永瀬浩太郎(44回生)講師が担当しておりましたが、次回より世話人会を復活させ会を運営する予定です。今回の参加者は33名(医師31、学生2名)でした。次回令和2年第31回の芙蓉医会は2月14日(金)新体制で開催する予定です。



平成30年佐賀支部会



第30回芙蓉医会

●長崎支部●

令和元年度 久留米大学附設高等学校  
長崎支部だより

長崎支部長 碓 秀 樹 (24回生)  
幹事 福 田 実 (32回生)

久留米大学附設高等学校同窓会長崎支部が平成30年11月10日(土)に長崎市ホテルニュー長崎の中国料理桃林で開催され、38名が参加しました(平成29年度は36名)。初めに「長崎県民が意外と知らない、V・長崎の魅力」田上和宏(39回生)、次に「走り続けるまちFUKUOKA」本村和也(33回生)の講演会を行い好評でした。続いて支部長が議長となり総会、その後懇親会を行い長崎支部活性化について話し合いました。学生の出席を増やすため平成26年度から学生参加費を無料にしており女性5名を含む14名の参加がありました(平成29年度は17名)。初めての参加者も楽しかったので次回以降も参加すると言っています。次回は同会場です(令和元年11月9日(土)に同窓会を開催予定です(8月に案内送付予定))。

参加希望の方は幹事福田 実 FAX:095-819-7776まで。

長崎県北同窓会として「傘寿還暦お祝い会」が平成31年2月25日ホテルロータスハウスで開催されまし

た。26名が参加し、稲毛昭二(7回生)、國崎忠臣(7回生)、田川喜代登(7回生)の傘寿、池永英恒(25回生)、松永和雄(25回生)、牟田弘毅(25回生)の還暦をお祝いしました。小田英俊(29回生)が幹事を努めました。県北参加者は社会人だけですが活発な活動を続けています。

長崎支部新入生歓迎会が平成30年7月4日(水)ガレッジ酒場で開催されました。24名が参加し、新入生4名をお祝いしました。新入生を皆でサポートしていきます。

長崎支部ゴルフコンペが平成30年11月11日(日)にハウステンボスカントリークラブで開催されました。好天に恵まれ参加者10名が楽しみました。優勝とベストスコアは傘寿を迎えた國崎忠臣(7回生)でした。次回は令和元年11月10日(日)に開催予定、参加者募集中です。参加希望の方はゴルフ幹事福島徹也 FAX095-857-7400まで。



## ●熊本支部●

# 熊本大地震からまる3年。 JR熊本駅も新たな再開発に着手するなど、 着実に復興しています!!

熊本支部長 川崎 博 (16回生)

## ◆順調に進む震災からの復興

震度7級の揺れが連続した熊本大地震からまる3年が経過しました。熊本はまだ仮住まいの被災者も相当数おられるものの、熊本城の大天守も、急ピッチの工事で外観だけはかつての威容を取り戻しつつあり、アジアからのインバウンドも戻ってきました。10月にはラグビーのワールドカップ、11～12月には女子ハンドボールの世界選手権大会も開催されます。また、熊本市中心部の桜町ではバスセンターとMICE施設、ホテル、映画館、マンション等が一体となった大型の再開発ビルが完成、JR熊本駅も新たな再開発に着手するなど着実に復興しています。

## ◆平成30年度支部総会と懇親会

平成30年10月14日(日)に熊本市中央区のホテル日航熊本で附設高等学校同窓会熊本支部総会が開催されました。社会人30名、学生16名が参加、急逝された同窓会長、故川嶋文信さん(19回生)に黙祷を捧げた後、寺嶋隆則支部長(14回生)の挨拶で開会しました。ゲストとして同窓会副会長の岸哲司さん(22回生)、附設高校長の町田健さん(23回生)が駆けつけ、二人は附設の卒業生が12000人になること、同窓会報が9800人に発送されていること、母校の最新情報などを説明。OBたちの興味を引いていました。

総会では、寺嶋支部長に代わり、川崎 博(16回生)が新しい支部長に選出されました。

記念講演は、元NTT西日本熊本支店長で現在、株式会社ミライト・テクノロジー代表取締役社長の高島宏一さん(22回生)が担当、熊本時代に本業の傍ら、地域の祭りやイベントに熱く取り組んだエピソードを面白おかしく披露し場を盛り上げました。また、乾杯では、同じ22回生の片淵秀隆さんが母校で行った出前授

業の感想を披露、現代高校生の実像に驚きの声も上がっていました。お酒と料理が進む中、新入学生会員の自己紹介では先輩たちから次々に不規則質問が飛び、会場は笑いに包まれていました。場所を移した二次会にも多くの会員が参加し、遅くまで語り合いました。

## ◆平成30年度熊本支部卒業生祝賀会

平成31年3月8日(金)、熊本市中央区の「瑞恵」で開かれました。いわゆる“追い出しコンパ”で、社会人12名、学生18名が参加。眞名子聖史さん(58回生)、木村太一さん(60回生)、的場啓五さん(60回生)の3人の卒業と医師国家試験合格を祝いました。

同窓会熊本支部の川崎博支部長(16回生)や副支部長の片淵秀隆さん(22回生)、新しく眼科の教授に就任された井上俊洋さん(38回生)が社会人の心構えも含めたお祝いの挨拶を行い、花束や記念品が手渡されました。3人が、懇親のお酒でほほを赤らめながら今後の抱負を語ると、会場は大きな拍手に包まれていました。



## 令和元年度の支部総会及び懇親会のご案内

日 時▶令和元年9月29日(日)午後4時より 場 所▶ホテル日航熊本

講演会講師▶葉玉 匡美 (32回生 TMI総合法律事務所 パートナー)

連絡先▶ユニ建築設計有限公司 村上尚彌(33回生) TEL▶096-372-0004 URL▶<http://www.uni-a.net>



## ●東京支部●

## 同窓生同士が回生を超えて活発に交流する中で、 多様な交流が可能に!



東京支部長  
小田 恵介 (19回生)

昨年6月の川嶋文信同窓会長(19回生)の急逝に続いて、11月に渡辺望稔同窓会顧問・第二代東京支部長(8回生)が逝去されました。同窓会としては続いて大きな柱を失い悲しみに耐えられません。改めてお二人のご冥福をお祈りします。渡辺さんは、まだ東京支部がない40年近く前には密かに明善関東同窓会に参加して懐かしい故郷の人々と交流していたそうです。「話をしているうちに附設ってことがバレちゃうんだよな。何とか東京支部を作りたいと思ひ仲間と苦勞して東京支部を立ち上げたんだ。」と、折に触れてニコニコと楽しそうに話されていたことを思い出します。

多くの支部員を有する東京支部では、今まで様々な取り組みを行い同窓会活動の活性化をはかって来ました。

同窓生同士が回生を超えて活発に交流する中で、多様な活動が行えるようになりました。

東京支部では、懐かしい友との出会いの場であると共に、同窓会が持っている優れた資産を、同窓生皆さんが活用出来るような場をこれからも提供していきたいと考えています。

この春、67回生の卒業で、附設の卒業生は12,885名に達しました。首都圏の同窓生は約4,000名を抱えます。毎年卒業生200名のうち、おおよそその半数の100名が、首都圏の大学に進学して上京して、東京支部の会員になります。去る、6月7日の新人歓迎会には、70名超の大学1、2年生が参加してくれ、社会人を加えて87名と大盛会となりました。

今日、東京支部があるのは、豊田勝業支部長(1回生)、渡辺望稔支部長(8回生)、長縄雅夫支部長(14回生)の、母校愛と、同窓生、在校生への並々ならぬ熱い思いによる長年の地道な活動と、それを支えていただいた、同窓生皆様のご支援のお陰です。

さらに同窓会の人的資源を活用していける場を、様々な形で提供して、『会員間の互助親睦並びに母校の発展』に、寄与したいと考えています。

さて、今年から長年の懸案であった、サロン・ド附設イン東京を復活させ、豊かな人材を誇る当同窓会の同窓生が、相互に知見を共有する機会を設けるべく「附設塾」として開塾しました。

今後、様々な業界の『附設の輪』が広がることを期待してやみません。福岡支部とともに両輪となって、同窓会本部を支え他の支部を応援していきたいと思ひます。

長谷川房生元会長がめざされた『附設ファミリー』が名実ともに豊かになり、附設に学んだ事を幸せに思えるようになることを期待しています。

### 【支部での活動と今後の課題】

- |                 |                                       |
|-----------------|---------------------------------------|
| ① 回生代表世話人会      | 4月、7月の年2回                             |
| ② 附設東京ゴルフ会      | 5月、11月の年2回                            |
| ③ 新人歓迎会         | 6月に開催                                 |
| ④ 就職セミナー        | 12月、2月……今年で24回を迎える                    |
| ⑤ 東京支部総会        | 2018年から10月上旬に開催                       |
| ⑥ 他支部との連携       | 関西支部、中部支部、北海道支部、東北OB会など               |
| ⑦ 東京事務局の開設      | 2017年9月から東京交通会館1010メディア総研内に東京支部事務局を移転 |
| ⑧ サロン・附設イン東京の復活 | 2019年から「附設塾」を開塾                       |

## ● 東京支部 ●

平成30年度  
東京支部総会&懇親会のご報告

35回生幹事長 高尾野 健 (35回生)

台風の影響が心配される中でしたが、平成30年10月6日(土)に大手町サンケイプラザにおいて、東京支部総会&懇親会を無事に開催することが出来ました。遠方からも沢山参加して頂き、300名弱の参加者にご参集いただき、大きな混乱もなく無事に終了致しました。

東京支部総会では本年6月に急逝されました川嶋文信前会長の追悼から始まり、議事も満場一致で無事に決裁されました。懇親会では附設高校第1回生の隈正之輔先輩の鏡割りや、高橋友作新会長のご挨拶、町田健校長先生には挨拶だけでなく、イベントにも参加して頂きました。イベントでは熊本県荒尾市出身(福岡県大牟田市生まれ)のお笑い芸人「ヒロシ」に登場してもらい、円熟した自虐ネタを多数披露してもらいました。途中では町田健校長先生、末永寛先生、中島健治先生、65回生の有馬颯希女史にも登壇してもらい、各自のネタを披露してもらい、会場を大爆笑の渦に巻き込みました。中締めでは恩師代表として大津留敬先生から卒業生全員への力強い激励のお言葉を頂戴しました。最後は小田恵介東京支部長音頭での万歳三唱でお開きとなりました。

昨年は35回生が幹事学年として運営を進めてまいりましたが、同窓会関係者と先生方のご協力、34回生の先輩方のご助言、および同窓生皆様方からの貴重な広告掲載やご寄付のご協力があったからこそこの会の成功だったと思います。心より御礼を申し上げます。また当日の36回生と65回生の協力なしでは到底うまくいかなかったとっております。重ねて感謝申し上げます。附設の縦と横の繋がりが今後の同窓会活動で継承されていきますことを祈って、35回生も微力ながらそのお手伝いを継続していきたいと思っております。

本年は令和となった最初の東京支部総会となります。36回生の飯沼幹事長を中心として、2019年10月19日(土)に昨年同様の大手町サンケイプラザで開催されます。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、昨年急逝されました川嶋文信前会長、および東京支部の二代目支部長で長く東京支部の活動をご支援頂きました渡辺望稔さんのご冥福をお祈りして、東京支部総会の報告と致します。



# 久留米大学附設高等学校同窓会 東京支部総会 開催のご案内

# 2019 10/19 Sat.

14:00~14:30 総会(13:30受付開始)

15:00~18:00 懇親会

**大手町サンケイプラザ 4階**

東京都千代田区大手町1-7-2 (大手町駅直結)

附設同窓生 各位

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、今年も附設東京支部総会を下記のとおり開催いたします。先生方や諸先輩方が築かれた附設の温かい伝統にふさわしい、イブニング附設のような同窓会を開催できたらと考えております。

つきましては、ご多用中かと存じますが、皆様ご出席を心よりお待ちしております。

2019年7月 36回生度幹事団一同

## スケジュール詳細

**受付 4階 ホール 13:30~14:00**

**総会 3階 セミナールーム (100名:教室形式)**

14:00 開場  
14:00~14:30 東京支部総会  
14:30~15:00 4階に移動

**懇親会 4階 ホール (300名:立食)**

15:00~15:30 鏡開&乾杯  
16:30~17:30 イベント  
17:30~18:00 中締&閉会

## 会費

シニア (1~20回生) & 女性 6,000円  
一般 (21~63回生) 9,000円  
学生 (64~67回生) 3,000円  
\*院生を含む学生の場合は回生関係なく3,000円です。

## 申込フォーム

<https://forms.gle/CYk1aqDQQF6pnCK1A>

右のQRコードもしくは上記アドレスより  
お申し込みください。



## 会場案内

# 大手町サンケイプラザ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2

## 地下鉄

丸の内線・半蔵門線・千代田線・東西線・都営三田線  
『大手町駅』下車 **A4・E1出口直結**

## JR

『東京駅』下車 丸の内北口より 徒歩 7分

## 連絡先

36回生幹事団 fusetsu36@gmail.com  
幹事長: 飯沼 良介 ryosuke.iinuma917@gmail.com  
090-4021-3950





## 山下 健二

(高校25回生、中学3回生)

東京大学工学部卒業後三井物産(株)入社。スウェーデン/ストックホルム5年、オーストラリア/ブリスベン、シドニー 計4年弱、ロシア/モスクワ3年、タイ/バンコク 1年半と機械畑での海外駐在。九州支社で5年勤務し山笠では西流に参加。関西支社勤務を経て2016年10月より(株)サタケに出向、2017年末三井物産を定年扱退職後サタケに転職しサタケオーストラリア社長として駐在中。

メールアドレス ken@satake.com.au

## シドニーより

昨年1月よりサタケオーストラリア(株)社長としてシドニーに単身赴任しております25回生の山下と申します。オーストラリア駐在は2回目で前回の駐在は前職の三井物産(株)でブリスベンとシドニーに合計4年弱家族と共に駐在しました。60歳を前に取引先の世界的精米機や製粉機のメーカーで広島(株)サタケに2017年末に転職しました。

オーストラリア最大の都市シドニーは人口525万人、海外各地を駐在や出張で回った中で治安も気候も良く風光明媚で特に気に行っていたのがシドニーでしたので当地に再度駐在出来たのは大変ラッキーでした。しかしながら前回駐在時と大きく違っているのが物価で以前は日本より物価が安くて住やすかったのですが鉄鉱石、石炭等の資源バブルに豪州が沸いた結果物価が大幅に高騰してしまいました。資源バブルの最盛期には鉄鉱石山の大型ダンプの運転手の年収が2000万円を越えると言われた程です。日本に比べると牛肉などのごく一部のものを除くと日本の5割増しは当たり前でものによっては2倍のものもあります。特に移民受け入れが寛容だったことと相まって不動産は中国、香港、シンガポールなど華僑系などからの投資の影響もあり価格が高騰、若者には手の届かない1億円を越える物件が目白押しという不動産バブル現象が発生しました。郊外の物件開発が進むと共に沈静化の為に移民受け入れを厳しくした結果このところ漸く不動産価格の一部下落傾向が見えており日本の様なバブル崩壊を避け如何にソフトランディングさせるかが政府の腕の見せ所です。当方は駐在なので家賃は会社持ちにて借家でやっていけますが仮にここに永住しようと思うとこの不動産問題は最大のハードルです。オーストラリアは旧大英帝国の一員であることもあり今でも相続税はただなので親の不動産をそのまま子供が受け継げるメリットもあります。27年も経済成長を続けている豪州でもありこの不動産高騰下でも現政権が引き続き政権維持との民意が最近示されましたのもこの辺りが理由の一つかも知れません。

風光明媚なシドニーですが湾が深く市の中心部に大型客船が停泊出来るのも大きな特徴でハーバーブリッジ、オペラハウスの側を大型客船が進む姿は一見の価値があります。シドニーは魚影も濃く海釣りには最適で日本人会釣りクラブ部長として外洋釣会を月1回主催し釣った魚を居酒屋に持ち込んで2次会も楽しんでおります。日本人にはカンガルーとコアラなどの動物やグレートバリアリーフなどの自然のイメージが強いオーストラリアですが文化面でも英国の影響でバレエ、オペラ、クラシックが盛んで現在オペラハウスの専属合唱団のメンバーとしてオーケストラと共にステージに立つ機会も度々あります。大学時代から合唱を続けているのも附設高校の合唱祭がきっかけです。

仕事面ではこのところ干ばつで米が例年の1割しか取れなかったり自然に翻弄され又高い人件費(最低賃金が何と1600円/時ほど)、物価高騰を受けトヨタ、三菱自動車等豪州での自動車工場は全て閉鎖された中 現地生産を続ける事は厳しい環境ではあります。他方最近日清製粉さんが豪州の大手製粉会社を買収されるなど新しい動きもありビジネスチャンス逃さぬよう邁進する所存です。

シドニーにお越しの際は是非ご連絡下さい。





## 栗原宏和 (29回生)

1986年東京大学文学部を卒業、日本航空入社。

成田の貨物部門を振り出しに、大阪の貨物販売、国際業務、秘書部門を経たのち、運航本部という部門で、パイロットの労務対応をする部門に配属される。

その後、ソウル支店勤務を3年経たのち、関連事業部に異動。ここで関連会社の人事をする仕事に明け暮れ、その後、人事部に移動。ちょうど2010年の会社倒産の時期であり、多くの先輩社員の皆さんに退職を勧奨する仕事に専念、ここでの経験は決して忘れられません。

その後関連会社に出向したのち、2014年からロサンゼルス支店、2017年より現職。

### メールアドレス

kurihara.s7e6@jal.com



# ソウルは本当に近い国です。 是非お仕事、休暇でおいでください。 歓迎いたします!!

高校29回生の栗原宏和です。早いもので高校卒業してはや40年が過ぎる年代となりました。現在は日本航空韓国支店で勤務しています。韓国勤務は2回目で、一度目は所謂ヨン様ブームの後半の2003年から3年間勤務しました。10数年ぶりのソウルですが、物価が高くなったこと（冷麺が1,000円以上とは!）と、以前は、砂糖、塩はあまり使わず、唐辛子主体の味付けが多かった韓国の食べ物の味が、甘くなったことに、月日の流れを感じています。

高校時代は昭和の真最中で、実家が小倉だったため、3年間を扶桑学寮ですごし、久留米を離れた難がったのか、更に一年、石橋文化センター近くに仲間と下宿して、補習科に通いました。この時の仲間との超濃密時間は、自分の人生に、本当にかげがえのないものだと思います。寮の消灯時間を過ぎて、こっそりと非常口から数人で抜け出し、インター近くのリンガーハットでWチャンポンを食べたり、ラグビー同好会で桧垣先生の指導のもと、商学部グラウンドで走り回ったりしたこと等、今でもその時の情景がカラーでよみがえります。

1986年に大学を卒業し、あまり深く考えることなく、文学部卒業生でも入社させてくれた日本航空に入りました。当時、日本航空に入る人の多くは、海外で活躍できることを夢見ている人が多かった時代で、私もほんやりと、海外行きたいなあ、と思っておりましたが、入社以来、貨物⇒企画⇒秘書⇒パイロット労務対応、と、なんとも内向きの仕事が多く、初めての海外赴任が、ソウルでした。御多分に漏れず労務問題が厳しい、ストレスフルな勤務でしたが、韓国のスタッフの皆さんとの温かい人間関係が一番の心のよりどころでした。その後海外ではロサンゼルスで4年ほど勤務し、今回2回目の韓国赴任ですが、現在の韓国は、表の世界では、北朝鮮核問題や韓国の慰安婦問題、徴用工問題など内外に問題山積ですが、私が日ごろ接する人々は、とても情が厚く、優しい、魅力的な人が多いと感じます。

何でも、一面的にはとらえられず、色々な面を見ることが本当の隣国理解につながるでしょうし、そういった環境が草の根交流で広がってほしいと思う日々です。

その意味では、飛行機屋として、皆さんの交流に少しでもお役に立てることは、いい商売だなあと感じます。ソウルは本当に近い国ですので、是非お仕事、休暇でおいでください。歓迎いたします!!



## 松 寄 貴 洋 (39回生)

大学時代に北京の對外經濟貿易大学に留学。一橋大学卒業後、1996年にみずほ銀行の前身の日本興業銀行に入行。外為、個人、金融法人営業などを経て、2004年に上海支店(当時)に駐在。現在は、みずほ銀行(中国)有限公司中国拠点管理部兼中国業務部副部長として、現地法人の組織・体制、当局対応、事業戦略・企画策定等に従事。

### メールアドレス

yoshihiro723@hotmail.com



# 先輩・後輩の皆様方と、附設のこと、福岡のこと、そして中国のことで盛り上がればと思います!!

皆様こんにちは、みずほ銀行(中国)有限公司に勤務しています39回生の松寄と申します。現在上海にて勤務しておりますが、2004年以降、途中3年間の東京勤務を除くとずっと中国におり、駐在は足掛け12年になります。勤務地も上海、蘇州、深セン、そして現在は2回目の上海となります。営業の現場が長かったのですが、現在は1,600名規模となる現地法人としての銀行における、経営管理、戦略企画といった分野の業務を担当しております。

日本の銀行と中国の関係の歴史は長く、中国は今年改革開放40周年を迎えましたが、正に1970年代から、産業振興に関する金融面でのノウハウ提供、プロジェクトへの資金供給といった面で中国の発展に関与してきました。その後89年の天安門事件を経て、90年代に中国が外資の積極導入政策に転じると、日本企業の進出が本格化し、銀行もそれに合わせて日系企業を支援する機能として、中国国内に支店を開設し、資本金口座や外貨の貸出・決済といったサービスを提供するようになります。2000年代に入ると中国のWTO加盟によって、外資開放がさらに進み日本企業の進出も一気に加速します。銀行業務自身も同様で、私の勤める銀行も2007年に現地法人を設立し、当初4支店から現在の16拠点(含む出張所)まで拡大しました。2010年代になると今度は中国自身が一大市場となり、中国国内向けに消費財を製造する企業やサービス業の会社の進出が増えるとともに、中国企業も力をつけ海外に進出する企業も増えてきました。そうした中で、銀行の業務も日系企業にとどまらず、中国企業向けへのサービス提供にまで拡大してきました。

この40年間日本と中国の関係は難しい時期もありましたが、確実に拡大しており、私自身もその一部ではありますが金融という側面から関わってきました。

一方、目を転じて今の中国はと申しますと皆様もご案内の通り、時代の最先端が町にあふれています。その一端をご紹介しますために最近実際経験した少しお恥ずかしいお話をご披露しますと、北京に旅行に行った際、財布を落としてしまいました。北京のホテルを出て、上海の家に戻るまでの記憶を辿ると、ホテルからタクシーを呼んで、空港でチェックインをし、食事や買い物をして上海に到着。地下鉄に乗り家に戻ったのですが、使ったのは携帯一つでした。幸い財布は北京の空港で見つかったのですが、どうやら物を取り出す際にベンチに置き忘れたようでした。まさに、キャッシュレスの時代を端的にお示しする事例かと思えます。それだけではありません、乗ったタクシーでの落し物を調べるには、配車アプリにアクセスすると、途中まではAIがチャット上で対応してくれます。また、北京空港での落し物はサイトを開くといつ・どこで・どんな落し物があったかを確認することができます(「ここまで開示していいのか」という疑問もわいてきますが。。。)

日本人の感覚からすると、「ここまでやるか?」といったことに遭遇することも多く、そこに違和感を感じることもまれではないのですが、気づいたら問題と思われることが解決していたり、おかしいと思っていたことが改められたりする。この繰り返しの中であとから振り返ると結果として大きく前進している、というのが中国のダイナミズムといったところでしょうか。

最近の皆様のご関心は米中貿易戦争や中国のイノベーション企業といったところかと思えますが、前者について一つの側面を簡単にご紹介申し上げると、日本に対する期待感は相当なものがあります。もちろん様々な思惑・背景はありますが、それはどこの国も同じこと。しっかりと向き合うタイミングなのだと感じています。また、後者については私自身少し前まで深センにいたこともあり、今話題のH社をはじめ付き合いがありますが、彼らは総じて努力家でスマート、そして明るく前向きです。中国と向き合う時、国や社会レベル、会社・個人レベルなどの間で、日本の目線では矛盾を感じることも多々ありますが、結論を急がず両面を見極めてゆくことが大切だと思っています。

昨今は附設の卒業生の方でも仕事の関係で中国にこられる方は非常に多いかと思えます。先輩・後輩の皆様方と、美味しい料理と美味しいお酒を味わいながら、附設のこと、福岡のこと、そして中国のことで盛り上がればと思います。ぜひご連絡をお待ちしています。

## 25回生、 二日市温泉で還暦同窓会

### 池 郁 生 (25回生)

(いけ ふみお)

昭和33年12月生 (60歳)

昭和57年 東京大学農学部卒

昭和60年 東京大学大学院博士課程中途退学

同年、理化学研究所入所。

現在、理研特別嘱託研究員、

日本実験動物学会理事、

日本実験動物医学会副会長ほか

2014年、久留米大学附設高等学校同窓会定期総会(幹事25回生)に合わせ、「25回生の集い」が総会前日(2014年7月20日(日))に福岡市の中華料理「八仙閣」本店で開かれた。「25回生の集い」では同級生が久しぶりに集い、次は60歳になる年に「還暦同窓会」をやろうということになった。

2016年11月12日(土)の久留米大学附設高等学校同窓会東京支部総会には福岡から川口武寿くん、帆足俊男くん、山口佳秀くんが来てくれて、還暦同窓会を2018年8月に二日市温泉1泊で企画中との報告があった(平成最後の8月)。

我々、附設高校25回生の半数は附設中学3回生である。高校では、中学卒業生の半分はABCクラスに、残りの半分はDクラスという構成だった。僕は高校入学組で、いつになったら中学から上がってきた友達に追いつけるのかと思ったものだ。

2018年8月11日(土)、JRの二日市駅に降り立つと、知った顔が続々と集まってきてタクシーに分乗し二日市温泉 大丸別荘へ。西鉄利用や自家用車で来た者も含め総勢57名(うち宿泊47名)が総幹事らの乾杯挨拶で会食開始。みんな温泉に入ってくつろいだ格好であり一気に昭和な大宴会へ突入した。各自の挨拶があり、最後は恒例の校歌斉唱。あっという間に会食が終わると、ラウンジで二次会。そして各部屋に戻って夜中までみんなで楽しんだ。元気な人達は翌日のゴルフに備えて早寝したが(ゴルフ参加者21名)。

二日市温泉は福岡市から近く、お湯もよく、風情ある日本庭園ありの極楽同窓会で、また5年後にみんなでおおうということになった。

幹事の皆様、ありがとう。同期の皆様、ありがとう。

#### 〈25回生還暦同窓会〉

場 所：二日市温泉 大丸別荘

日 時：2018年8月11日(土)18:00~

参加者：57名

幹 事：川口武寿、山口佳秀

実行委員：池田 潔、江藤耕太郎、島添隆雄、豊福士文、古川裕之、帆足俊男、渡辺浩一

写真データ提供：田中法瑞、馬場 洋、山下健二

#### 〈親睦ゴルフ大会〉

場 所：夜須高原カントリークラブ

日 時：2018年8月12日(日)

参加者：21名





## 渡辺紀雄 (9回生)

1942年(昭和17年)生まれ  
八女市立福島中学校卒業  
中央大学法学部卒業  
株式会社コーセー定年退職  
さいたま市在住



附九ゴルフ会



附九歩こう会



附九囲碁会



東京駅見学

# 「附九会」という9回生の絆

まず高校時代の時代背景と状況を簡単に紹介しておきます。

昭和33年(1958年)4月入学、昭和36年3月(1961年)卒業です。

この時代の日本経済は、戦後の復興に向かって、世界に例のない高度経済成長期に入っており成長率年平均10%を超えるような時代でした。岩戸景気という好景気の始まりで、物があふれようになり、戦争の記憶が少しずつ薄れていきました。

当時の校舎は、大学御井町キャンパスの南端にあり兵舎跡を利用した木造平屋建ての東西に延びた建物でした。先生方は、温厚でしかも威厳のある医学博士の板垣校長先生や心優しい漢文の大石先生通称亀ちゃん、人文地理の福田先生、新進気鋭の数学者稲益先生などです。同級生は、男子のみ150名。筑後地区や久米市寄りの佐賀県や日田市などからの通学者がほとんどでした。

附九会というのは、9回生で関東地区に住んでいる同期の人たちの親睦会として発足しました。「附設高等学校九回生」の「附」と「九」を組み合わせてつけた名称で、発足して今年で17年になりますが未だに続けている会があります。

これらの会のお蔭で高校時代よりもいっそう友情が深まりましたので、これからも知力、体力、気力が続く限りやっていきたいと思っています。

### 〈附九呑もう会〉平成15年6月に発足

定年を機に、開催日を毎月第1木曜日、場所を八重洲有薫酒蔵に決めて集まることにしました。お父ちゃまと呼ばれる店主の人柄にもひかれ開催するごとに参加者は増え12、13名が集まるようになりました。いつも高校時代の思い出の代わり映えしない話ばかりでしたが楽しい時間を過ごしました。年2回女房孝行も兼ね暑気払いと忘年会を開催しておりましたが、100回を迎えたころには、夜の外出が億劫になり休会にしました。

### 〈附九旅行会〉平成15年11月に発足

あるとき海外旅行の話がまとまり、早速世話人を決め10年計画をたて、皆さんに諮ったところ6、7名の夫婦が賛成。まずニュージーランドを皮切りに、北欧三国、オーストラリア、スイス等10回の海外旅行を実施しました。

### 〈附九ゴルフ会〉平成16年2月に発足

体力維持のために、共通の趣味であるゴルフ会を毎月第3木曜日を定例日とし始めました。技量に大きな差はなく、また反省会を目的に参加する人もいて気兼ねなく楽しむことができました。140回近くの会を重ねましたが昨年1月休会にしました。

### 〈附九歩こう会〉平成17年1月に発足

皇居の周り一周を歩いたのが第1回目、その後参加者も増えてきました。現役中には夜の東京の街を彷徨うことがあってもなかなか昼間に散策する機会はなく、昼の東京都内とその周辺は今までにない新鮮さを感じました。実施回数150回近くになりますが未だに続けております。もちろん反省会も続けております。

### 〈附九テニス会〉平成18年10月に発足

テニス好きの夫婦で始めましたが、コートの予約が難しくまた天候に左右されやすいので、2年余りで休会としました。運動量が多く、瞬発力を要求されるので老化防止には効果がありましたがやはり加齢に伴う衰えを実感しました。

### 〈附九囲碁会〉平成19年6月に発足

ボケ進行防止対策として囲碁会を始めました。毎月第一火曜日を定例日として、同期のアマ八段、六段の高段者の熱心な指導のもと、学士会館で開催しています。終了後は近くの蕎麦屋で焼酎の蕎麦湯割を飲みながら“なんとつくれん話”を楽しんでいます。

余談ですが、新宿の碁会所で打っていたとき東日本大震災の大揺れに遭いました。

### 〈附九会の番外編〉平成30年6月

改装なった東京駅舎を大牟田出身の駅長さんのご厚意で見学させていただきました。



# 平成時代と共に歩んだ写真記者、 写真編集者(毎日新聞出版)

中村 琢磨 (28回生)



- ① 写真展のギャラリートークで、トイドローンを飛ばす=左下(2018年)
- ② 二胡(中国楽器)を弾く、時にはホラも吹く(2013年)
- ③ テロから1年のニューヨークで(2002年)

昭和から平成へ(1989年)

新聞社といえば、『報道の自由』とか『社会の木鐸』とか、偉そうな事を捲き立てる癖に、自分達こそがブラック企業じゃないか!』と負のイメージを抱かれる方も多いでしょう。完全否定は出来ませんが、「建て前、綺麗事」も時には大切です。世の中、本音だけでも成立しません。だから、時代遅れと言われつつも、新聞社は未だに存在可能なのです。

さて、私が、新聞社の「出版局」に異動になったのは1990年ですから、30年余りも同じ部署に居座った事になります。当時、新聞の写真記者は、「撮影する事」よりも「如何に早く確実に写真を送るか」が仕事のようなものでした。電話回線或いは無線回線を確保して、素早くフィルムを現像し、スパイみたいに特殊な機械で伝送(電送)していました。出張機材は膨大な量です。勿論、「伝書鳩で現像済みフィルムを運んでいた時代」よりは、格段に進歩していましたが、幼い頃からインターネットが普及していた今の若い世代とは隔世の感です。

出版では、締め切りも遅い分、「新聞とは違う自由な仕事」をさせて貰いました。「アサヒグラフ」や「毎日グラ

フ」等の新聞社系グラフ雑誌(銀行の「待合室雑誌」とも言われていた?)も、それなりに存在意義が有った時代です。飛ぶ鳥を落とす勢いだった写真週刊誌の人達と、現場で肩を並べる事も有りました。撮影だけでなく、媒体を意識した「写真の組み方、ストーリー展開の仕方」を学べたのも大きな収穫ですね。日常的な泊り勤務が無い分、給料は減りましたが、気にしませんでした。

世の中が大きく変化して仕舞いました。今や、誰でも瞬時に写真をクラウド上にアップ出来ます。動画の中継すら可能です。写真の入手方法も増えました。もう、私には、自ら最前線に行く必要は皆無です。一方で、「過去の写真を掘り起こし、データ化する」のも大きな仕事になってきました。これも、自分達を含めて先人達が、きちんとフィルム管理、情報管理を積み重ねてきたからこそ可能な事です。同じ現象や出来事でも、時代によって、捉えられ方が異なるし、求められる情報の切り口も異なりますが、常に、「ちょっと違う角度から物事を見たり考えたりしようとする柔軟な(ひねくれた?)姿勢」は大切です。



- ① 金日成主席=平壤市で1991年4月
- ② 麻原彰晃被告の初公判の日=東京拘置所前で1996年4月
- ③ 噴火する有珠山=2000年4月
- ④ 阪神淡路大震災=神戸市で1995年1月
- ⑤ 中秋の名月・現代版=つくば市で2008年9月
- ⑥ 三井三池炭鉱閉山=荒尾市で1997年3月
- ⑦ 安保関連法案反対集会=国会議事堂前で2015年7月
- ⑧ 東京都知事選=鳥越俊太郎氏の事務所前で2016年7月
- ⑨ 長野五輪・ジャンプ団体戦で金メダル=白馬村で1998年2月
- ⑩ 信楽高原鉄道で正面衝突事故=信楽町で1991年5月
- ⑪ 「ダイヤモンド富士」に手をかざす牛久大仏=行方市で2015年1月
- ⑫ 雲仙普賢岳の活動は続く=深江町で1992年1月



女房とのふたり旅、ブラチャノ湖畔  
(ローマの北西50km)にて  
(2018.10.31)

## 大石 弘利 (7回生)

会報22号 (2015年 8月) に  
「サクラを訪ねて」を寄稿しました。

紀伊半島熊野川流域に自生の桜が  
103年ぶりに新種と認定され、  
「クマノザクラ」と命名されました。

ヤマザクラに似てますが、葉が小さく  
花はピンク色が濃く、鮮やかとても  
美しいそうです。

森林総合研究所は高い観賞価値がある  
として、種苗普及を計画するそうで  
大変楽しみです。

大石 弘利 k225hiro@gmail.com



亀次郎先生色紙



## — 人間一生これ研鑽 —

私達、附設高校7回生は昭和34年3月に卒業しました。卒業時に162名だった同窓生は現在112名(九州61名、関東39名、関西8名、その他4名)です。同窓会は四季会と称し、久留米で年4回会員間の懇親会、夫人を交えたゴルフなどで交流・親睦を深めてきました。また、サロン・ド・附設の7回生版として月1回有志による懇親会を福岡天神で開催しています。

卒業10年毎の節目には全国同窓会を久留米で開催し、母校見学のほか、2年前には仲間の物故者39名の合同慰霊祭を久留米市御井町浄土宗安養寺にて、同級生石原信正第51代住職により執り行いました。

関東では関東四季会と称し夏の同窓会、春秋のゴルフ会、秋の家族親睦旅行の4本柱の他に、七年前から囲碁の会を立ち上げ、「二水会」として毎月第二、第四水曜日に研鑽・親睦に努めています。

さて、予てから「全国同窓会を東京で」の要望があり、昨春から50名を目標に積極的に取り組みました。この結果、4月14日霞が関ビルで会員42名(うち九州20名関西2名)同伴者8名(うち九州5名)合計50名の参加をえて、盛大に開催し旧交を温めることができました。

会の運営については、有限な時間を歓談中心に効果的にとの観点から、近況報告など各人の軌跡や生き様などについて予め報告を求めました。それを纏めて参加者は勿論、諸般の事情でやむなく参加できなかった方やご遺族などにお送りし、大変喜んで頂きました。

閑話休題 七回生の熱き連帯と絆のシンボルは「四季会事務局」の看板に尽きると思います。これは大石亀次郎先生が百壽を迎えられたのを機に揮毫頂き、昭和62年1月に完成しました。当時西日本新聞・筑後版で報じられましたが、現在は母校の同窓会事務室に置かせてもらっています。

最近「人生百年時代」、「健康年齢百年」、「人生百年の蓄え」ときでは、のほほ〜んとしておれません。そんな折に、「百壽遺言状」なる恩師の本が国会図書館にあると聞き込み、早速行って拝読しました。が、恩師に雲上より、「いつまで人に頼っているのか、自分で考えよ!」ときついお叱りを蒙る始末。(^^)

佐藤一斎の「老いて学べば、死して朽ちず」ではありませんが、あれこれ考えるより、たとえ雑学であっても見聞に努めていますが、知らないことが如何に多いのかと知らされる今日この頃です。—人間一生これ研鑽—



# 平成30年度 一般会計収支決算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(円)

費目	予算額	決算額	差異	備考
<b>〔収入の部〕</b>				
会費(入会金)	824,000	824,000	0	4,000円×206名
会費(年会費)	3,715,000	3,701,500	△13,500	500円×615名×12ヶ月、500円×1名×7ヶ月、500円×2名×5ヶ月、500円×1名×4ヶ月、前年度分 500円×2ヶ月
終身会費新制度分	5,846,400	5,824,800	△21,600	800円×615名×12ヶ月、800円×1名×7ヶ月、800円×2名×5ヶ月、800円×1名×4ヶ月、前年度分 800円×2ヶ月、△返還800円×12ヶ月(前年度転退学者6名分)
終身会費過年度分	300,000	480,000	180,000	30,000円×16名
広告料収入	1,500,000	1,202,500	△297,500	
寄付金収入	0	30,000	30,000	
雑収入	0	7,666	7,666	
当期収入合計	12,185,400	12,070,466	△114,934	
<b>〔支出の部〕</b>				
1. 事務費	2,200,000	2,152,636	△47,364	
事務消耗品	10,000	5,810	△4,190	
事務備品費	40,000	0	△40,000	
事務委託費	1,200,000	1,200,000	0	事務員給与負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰り出し
同窓会本部予備費	150,000	167,055	17,055	
東京事務所費	600,000	600,000	0	東京事務所賃借料
通信費	150,000	122,182	△27,818	インターネット利用料、切手・ハガキ他
印刷費	40,000	48,297	8,297	
事務雑費	10,000	9,292	△708	
2. 事業費	9,560,000	9,458,460	△101,540	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	600,000	648,538	48,538	
正副会長会議	150,000	242,075	92,075	
総会関連支援費	300,000	173,360	△126,640	
支部総会関連(旅費)	500,000	171,488	△328,512	
(寸志)	240,000	210,000	△30,000	
後援会との交歓会	30,000	18,000	△12,000	
回生世話人会議	500,000	545,500	45,500	
役員活動費	100,000	197,636	97,636	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	450,000	405,300	△44,700	文化祭・体育祭援助
部活援助費	390,000	238,108	△151,892	美術部30,000円、サッカー部30,000円、柔道部30,000円、合唱部30,000円 軟式野球部30,000円、演劇部30,000円、剣道部28,108円、バスケット部30,000円
卒業記念品代	350,000	351,518	1,518	ペーパーウェイト 206個
進路指導費	600,000	497,680	△102,320	卒業生模擬試験経費援助124,000円、卒業生激励会経費援助373,680円
新人歓迎会補助	150,000	95,000	△55,000	
就職セミナー費用	650,000	131,485	△518,515	
ESS部海外大会出場費等	100,000	40,176	△59,824	高校ビジネスグランプリ記念楯
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	1,000,000	984,960	△15,040	サーバーハウジング費用51,840円、 会員管理システム・ホームページ管理料等933,120円
会報	3,200,000	4,151,442	951,442	会報誌(10,000部)の作成代、封筒印刷、送料を含む
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	
慶弔費	100,000	150,624	50,624	
事業費雑費	50,000	105,570	55,570	
3. 予備費	1,000,000	257,076	△742,924	広告制度委員会
当期支出合計	12,760,000	11,868,172	△891,828	
当期収支差額	△574,600	202,294	776,894	
4. 特別会計へ繰入(繰出)	△300,000	△480,000	△180,000	旧制度終身会費分
前年度繰越金	4,094,925	4,094,925	0	
次年度繰越金	3,220,325	3,817,219	596,894	

在籍数／	1年	207名	入会金なし1名
	2年	208名	
	3年	206名	会費なし2名、8月より退学1名、9月より転学2名、11月より転学1名
	合計	621名	

## 財産目録

普通預金(福岡銀行 久留米営業部)	3,864,718円(未払費用49,000円あり)
普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	0円
定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	2,701,501円(引当金および利息累計)
計	6,566,219円

# 平成30年度 特別会計収支決算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

〔収入の部〕		(円)	〔支出の部〕		(円)	財産目録	
前年度繰越金	179,314,714		貸金庫使用料	25,920	普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	3,783,557円	
一般会計より繰入	(30,000円×16名) 480,000		次年度繰越金	179,822,988	定期預金(筑邦銀行 本店営業部)	156,018,739円	
雑収入	54,194				定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	20,020,692円	
計	179,848,908		計	179,848,908	計	179,822,988円	

## 終身会費納入状況

2019年3月31日現在

回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率
1	60	101名 59%	17	59	195名 30%	33	177	209名 85%	49	152	201名 76%
2	80	141名 57%	18	59	195名 30%	34	185	217名 85%	50	135 (1)	200名 68%
3	67	135名 50%	19	74	205名 36%	35	158	209名 76%	51	157	202名 78%
4	75 (1)	153名 49%	20	54	209名 26%	36	175	209名 84%	52	145	203名 71%
5	63	159名 40%	21	75 (1)	211名 36%	37	158	199名 79%	53	163	199名 82%
6	66 (1)	159名 42%	22	79 (1)	229名 34%	38	154	210名 73%	54	147	204名 72%
7	93	162名 57%	23	62	183名 34%	39	166	202名 82%	55	136	197名 69%
8	84	171名 49%	24	73 (1)	214名 34%	40	123	201名 61%	56	139	205名 68%
9	61	149名 41%	25	98 (4)	220名 44%	41	88 (1)	205名 43%	57	144 (1)	199名 72%
10	76	150名 51%	26	165	223名 74%	42	106 (1)	206名 51%	58	147	198名 74%
11	63	159名 40%	27	156	201名 78%	43	109	208名 52%	59	149	210名 71%
12	59	154名 38%	28	172	217名 79%	44	117	197名 59%	60	131	199名 66%
13	75 (1)	165名 45%	29	160	215名 74%	45	132	194名 68%	61	152	201名 76%
14	54	145名 37%	30	176	212名 83%	46	128	195名 66%	62	139	203名 68%
15	52	161名 32%	31	159	217名 73%	47	119	194名 61%	63	141 (2)	199名 71%
16	58	208名 28%	32	174	224名 78%	48	135	197名 69%	64	132	200名 66%

※なお65回生以降は、全員完納会員です。

同窓会終身会費 会計報告	完納会員(3万円) 7,358(16)名	分納会員(2万円) 10(0)名	分納会員(1万円) 52(0)名
-----------------	-------------------------	---------------------	---------------------

## 平成30年度決算、平成31年度・令和元年度予算に関する補足説明

### 1 平成30年度決算

#### ① 平成30年度一般会計収支決算書

##### 【収入の部】

- 終身会費過年度分が予想より多くの方に納付いただきました。引き続き未納者への声掛けをお願いしたい。
- 広告料収入が配分ルールの見直しで計画を下回りました。
- 収入については概ね計画通り。

##### 【支出の部】

- 会議関連費用については、前会長の急逝にともなう臨時の正副会長会議の招集、新会長の高校、大学等への挨拶回り等で増加したものの支部総会等への旅費抑制等で予算比213千円のマイナス。
- 在校生等支援費用については、就職状況の変化で就職セミナーへの参加者が少なかったことや、部活・進路指導支援費用の申請が少なかった

ため予算比930千円のマイナス。

- 同窓会事業費については、会報関連費用が950千円の予算超過。記事や広告の増加によるページ数の増加、印刷部数の増加に加えて、WEB名簿のID・パスワード通知のための特別仕様の封筒作成、発送方法の変更による発送コストの上昇等の要因が重なったもの。

次年度では特殊要因を除いて今年度実績を減額して予算計上している。

- 支出合計は、予算比891千円の減少、前期比404千円の減少となった。

##### 【当期収支差額ほか】

- 当期収支差額は、202千円の黒字となり、予算比776千円のプラス。
- 終身会費過年度収入480千円を特別会計に繰出し、次年度繰越金3,817千円。

### ② 平成30年度特別会計収支決算書

- 当年度収入分を一般会計より繰入れた結果、次年度繰越金は前期比508千円増加の179,822千円となった。

### 2 平成31年度・令和元年度一般会計収支予算書

#### 【収入の部】

- 今期予算は、前期比260千円減少の11,810千円で策定。

#### 【支出の部】

- 前期増加した会報関連費用は、特殊要因を除き前期実績より450千円減額で策定。
- 新人歓迎会補助を一人当たり1千円から2千円に拡充、進路指導費、就職セミナー費用は前期予算と同程度を計上している。
- 収入の部がほぼ固定化しているため、同窓会活動の一層の充実を図るとともに厳正な予算の執行に努めていきます。

# 2019年度 一般会計収支予算書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

(円)

費目	30年度決算	当年度予算	差額	備考
<b>〔収入の部〕</b>				
会費(入会金)	824,000	808,000	△16,000	4,000円×202名
会費(年会費)	3,701,500	3,678,000	△23,500	500円×613名×12ヶ月(7,356)
終身会費新制度分	5,824,800	5,724,000	△100,800	800円×7,356名-800円×201ヶ月
終身会費過年度分	480,000	300,000	△180,000	
広告料収入	1,202,500	1,300,000	97,500	
寄付金	30,000	0	△30,000	
雑収入	7,666	0	△7,666	
<b>当期収入合計</b>	<b>12,070,466</b>	<b>11,810,000</b>	<b>△260,466</b>	
<b>〔支出の部〕</b>				
<b>1. 事務費</b>	<b>2,152,636</b>	<b>2,020,000</b>	<b>△132,636</b>	
事務消耗品	5,810	10,000	4,190	
事務備品費	0	30,000	30,000	電話器交換
事務委託費	1,200,000	1,000,000	△200,000	事務員給与負担
同窓会本部予備費	167,055	150,000	△17,055	
東京事務所費	600,000	600,000	0	東京事務所賃借費
通信費	122,182	150,000	27,818	インターネット利用料、切手・はがき等
印刷費	48,297	50,000	1,703	卒業生に交付するIDカード等
事務雑費	9,292	30,000	20,708	
<b>2. 事業費</b>	<b>9,458,460</b>	<b>9,900,000</b>	<b>441,540</b>	
<b>(会議関連費用)</b>				
理事会評議員会議費	648,538	650,000	1,462	旅費・食事代
正副会長会議	242,075	250,000	7,925	旅費等
総会関連支援費	173,360	200,000	26,640	総会予備費、講師旅費
支部総会関連(旅費等)	171,488	300,000	128,512	旅費等
(寸志)	210,000	240,000	30,000	支部支援 30,000円×8支部
後援会との交歓会	18,000	20,000	2,000	懇親会
回生世話人会議	545,500	700,000	154,500	
役員活動費	197,636	200,000	2,364	
<b>(在校生等支援費用)</b>				
生徒会援助費	405,300	450,000	44,700	体育祭・文化祭
部活援助費	238,108	390,000	151,892	30,000円×13部活
卒業記念品代	351,518	350,000	△1,518	ペーパーウェイト
進路指導費	497,680	600,000	102,320	卒業生向け模試、激励会
新人歓迎会補助	95,000	200,000	105,000	
就職セミナー費用	131,485	500,000	368,515	
校外活動援助費	40,176	100,000	59,824	
<b>(同窓会事業費)</b>				
ホームページ管理	984,960	700,000	△284,960	51,840円×12ヶ月+37,800円=659,880円
会報	4,151,442	3,700,000	△451,442	印刷費、発送費
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	
慶弔費	150,624	200,000	49,376	
事業費雑費	105,570	50,000	△55,570	
<b>3. 予備費</b>	<b>257,076</b>	<b>1,000,000</b>	<b>742,924</b>	
当期支出合計	11,868,172	12,920,000	1,051,828	
当期収支差額	202,294	△1,110,000	1,312,294	
<b>4. 特別会計へ繰入(繰出)</b>	<b>△480,000</b>	<b>△300,000</b>	<b>180,000</b>	旧制度終身会費分
前年度繰越金	4,094,925	3,817,219	△277,706	
次年度繰越金	3,817,219	2,407,219	△1,410,000	

# 久留米大学附設高等学校同窓会 平成31年度役員名簿

**役職名 支部名 回生 氏名**

顧問			
1	福岡	8	井手和英
2	福岡	10	古賀暉人
3	福岡	13	長谷川房生

**会長**

東京	19	高橋友作
----	----	------

**副会長**

1	東京	21	砂場泰浩
2	東京	21	栗木康幸
3	福岡	22	岸哲司
4	東京	23	吉田清隆
5	福岡	23	古賀善彦
6	東京	27	中村和徳

**理事**

1	山口	10	原好弘
2	佐賀	17	三根茂
3	中四国	16	近藤治幸
4	東京	19	小田恵介
5	福岡	19	本本敬吾
6	大分	19	藤原公司郎
7	北海道	20	檀浦龍二郎
8	福岡	20	橋本和幸
9	東京	20	安部政信
10	中部	21	石井三記
11	関西	21	甲斐田郁夫
12	福岡	22	松雪恵津男
13	東京	22	中村尚昭
14	東京	26	牛嶋啓二
15	福岡	26	実藤光二郎
16	東京	28	高木裕康
17	熊本	30	江頭有朋
18	長崎	33	本村克明
19	福岡	34	秋本丈司
20	校内	41	坂田真一
21	校内	45	阿部健太郎

**監事**

1	福岡	13	一瀬徹夫
2	福岡	25	矢加部浩一

**支部長**

1	山口	10	原好弘
2	熊本	16	川崎博
3	佐賀	17	三根茂
4	中四国	19	今田忠則
5	東京	19	小田恵介
6	大分	19	藤原公司郎
7	北海道	20	檀浦龍二郎
8	中部	21	石井三記
9	関西	21	甲斐田郁夫
10	長崎	24	碓秀樹
11	福岡	26	実藤光二郎

**役職名 支部名 回生 氏名**

**評議員**

1	福岡	1	隈正之輔
2	福岡	3	安恒好太郎
3	福岡	4	丸林茂夫
4	福岡	8	中村晃
5	福岡	11	重永征廣
6	福岡	13	宮本祐一
7	東京	14	久保田徹
8	福岡	15	平田三郎
9	福岡	16	中野博
10	山口	16	小野康行
11	福岡	17	武田由照
12	福岡	18	村岡和彦
13	佐賀	18	太田勘
14	福岡	19	横山晴明
15	東京	20	山下喜弘
16	関西	20	山本伸一
17	北海道	20	西見寿博
18	福岡	21	小林隆利
19	福岡	21	林公彦
20	関西	21	横山俊祐
21	福岡	22	山口博徳
22	福岡	23	江藤宏
23	福岡	25	宮原信孝
24	福岡	25	川口武壽
25	福岡	25	山口佳秀
26	福岡	26	藤田幸也
27	福岡	27	執行謙二
28	福岡	27	佐々木郁夫
29	福岡	28	吉本幸治
30	中四国	28	田代聡
31	福岡	29	木下宏太郎
32	東京	29	日高雄三郎
33	福岡	30	尾籠博光
34	福岡	31	森田昇
35	長崎	32	山縣雅義
36	福岡	34	永田八栄
37	中部	35	平田克弘
38	東京	35	高尾野健
39	東京	39	福山泰平
40	福岡	39	古賀篤篤
41	福岡	41	川野武志
42	福岡	42	楠田大蔵
43	東京	43	深野章
44	福岡	45	橋本道成
45	中四国	45	関太一
46	東京	47	浅枝謙太
47	東京	47	中嶋雅宏
48	東京	50	山口雅彦
49	東京	51	大津良太
50	東京	51	福島智史
51	東京	57	竹下知宏
52	東京	59	尾家杏奈
53	東京	60	岩崎里子
54	関西	61	佐伯洋輔
55	関西	64	廣田律

(敬称略)

# 回生代表世話人

福岡支部回生代表世話人						
回生	氏名					
1						
2	石橋	義昭	中村	幸孝		
3	安恒	好太郎	大場	清隆		
4	日野	俊二	中村	和正		
5	関野	順治	高木	俊夫		
6	野田	尚一	小吹	大学		
7	松本	保正	柿原	大兼	鶴史雄	
8	近藤	英喜	永野	盛吉		
9	城戸	英明	中島	正利		
10	橋本	克己	重永	征廣		
11	今里	克己	梅野	正裕		
12	大塚	哲也	上江	修一		
13	荒尾	誠也	古澤	敏生		
14	大井	英哲	古箱	田啓		
15	福中	河原	福山	明		
16	赤司	和彦	山口	浩生		
17	村山	晴明	武藤	邦弘		
18	横山	和幸	高島	光男		
19	橋本	元史	司松	大野		
20	一ノ瀬	善彦	人	浩一		
21	古田	章人	矢加	部一		
22	小口	佳秀	新里	祐智		
23	山口	光郎	高岸	和彦		
24	実藤	郁夫	岡嶋	敏尚		
25	佐々木	頭修	茂古	竹下		
26	江猪	銅秀	昇東	邊晃		
27	佐藤	藤昇	敬渡	田八		
28	坂田	源一	司永			
29	枝本	秋丈	宏			
30	津福	真一	義憲			
31	平野	野長	嗣			
32	富時	兼津	高孝	藤野	恭誠	
33	川行	野孝	志富	永泰	輔	
34	中島	幸史	研楠	田昌	蔵太	
35	陣本	内江	嘉将	池田	吉芝	
36	岡本	慎太郎	橋	本	道成	
37	出納	正樹				
38	熊谷	善昭	小原	尚利		
39	北島	昭興	山口	剛弘		
40	森山	裕司				
41	熊丸	陽亮				
42	植高	貴寛				
43	千代田	明久	池辺	健太		
44	佐藤	孝志	服部	幹		
45	橋本	智之				
46	井上	朝雄				
47	大澤	めぐみ	嶋田	寛之	岩尾和紀	
48	足達	咲希	中島	孝輔	布花原麻貴	
49	山下	華代	渡邊			
50						
51	小島	尚村	上龍	之介		
52						
53	笹栗	誠田	中雄	士		
54						
55						
56	富重	紀貴				
57	松崎	広太				

東京支部回生代表世話人						
回生	氏名					
1						
2	加藤	勝文	一郡	透		
3	野田	昌憲	佐々木	進		
4	柳塚	本忠	敬			
5	塚本	忠	敬			
6	鹿毛	剛之	山ノ内	盛光		
7	武藤	正克	之大	石弘		
8	井野	英東	戸澤	眞也		
9	星野	英東	戸澤	眞也		
10	佐伯	信雄	稲田	昌秀		
11	小嶺	敏郎	橋本	雄二		
12	林	章				
13	柳山	寿夫	阿志賀	雄二		
14	久保田	宙生				
15	楠田	宙生				
16						
17	中本	祥一	安宮	永裕	相幸	
18	藏守	友秀	高橋	友作	小田恵介	
19	安部	政信	太田	篤		
20	砂場	泰浩	大隈	茂		
21	中村	尚昭	新野	篤史		
22	吉田	清隆	持松	和弘		
23	田中	賢司	齊藤	彰力		
24	田中	浩一	篠原	彰考		
25	原田	稔古	古橋	宏明		
26	中村	和徳	上羅	元豪	古川幸稔	
27	高木	裕康	堀元	隆司		
28	日高	雄三郎	大坂	信智		
29	唐澤	達信	坂本	和格		
30	北島	誠也	大村	正範		
31	内山	修造	佐藤	一章	末永連之治	
32	木内	大吉	吉開	田勝	中昭彦	
33	工藤	宏記	阿部	高士		
34	小宮山	郁太郎	高尾野	健		
35	堀達	也	真栄城	正	飯沼良介	
36	洞幸	司	松本	義久		
37	高井	良輔	植木	正光		
38	福加	泰平	古門	成年		
39	白木	淳二	相部	任宏		
40	清田	陽司	見満	周宣		
41	深野	章山	山口	桂右		
42	秋本	晃伸				
43	中村	雄一郎				
44	宮田	知明	伊藤	藤周		
45	浅枝	謙太	中嶋	雅宏	光成洋二	
46	平川	翔泉	建太郎	吉岡	宏起	
47	牟田	秀俊	平進	之介		
48	山口	雅彦				
49	大津	良太	行時	直也		
50	喜多村	健人				
51	梅井	正彦	大神	征爾		
52	田邊	裕貴	大椿	聡一郎		
53	山本	航平	五十嵐	丈鑑		
54	光安	麻理恵	安丸	佑平		
55	石田	大典	宮尾	采佳		
56	廣兼	佑亮	中島	英恵		
57	城戸	祐亮	尾家	杏奈	為近峻太	
58	畔柳	駿一	三原	裕介	井手俊晴	
59	與島	仙太郎	山本	舜介	江崎隆一郎	
60	川野	秀太郎	坂口	華奈子		
61	富永	勇貴	上田	弦		
62	入江	啓介	古川	敦大		
63	平松	昂	白地	立		
64	石川	惣一朗	杉原	菜月		
65	下山	拓光	山崎	裕大		

福岡支部職域代表世話人	
福岡市役所	
33回生	本村和也
九州電力	
37回生	平野長暁
西日本鉄道	
36回生	上野潔
福岡県庁	
38回生	豊村謙治
福岡銀行	
45回生	小澄洋光

東京支部職域代表世話人	
霞が関等附設英蓉会	
21回生	青沼隆之

## 第23回就職セミナーは 個々の話をじっくり聞くスタイルとなりました

大津良太 (51回生)

第23回就職セミナーは、2020年入社内定を目指す学生を中心に開催いたしました。

ここ数年、就職戦線が目まぐるしく変化しております。

各企業、優秀な学生を採用すべく、スケジュールの早期化はもちろん、インターンシップをはじめとし様々な方法で学生にアプローチし、囲い込みを行なっている現状です。

(もちろん、伝統的な採用プロセスも行われています)

そのような社会の変化に対応し、学生に有益な情報を届けるべく、東京支部の就職セミナー事務局は、入社内定者や新入社員も積極的に巻き込み、例年頭を悩ませながら、時期や内容を入念に議論し、セミナーを実施しております。

その上で、附設のOB・OGそして、そのご家族のみで実施するクローズドセミナーであるという特徴を活かし、各社会人の先輩からできる限り本音トークをしていただき、双方向で議論できる場を提供しています。

(例年、社会人の方からも「学生と議論できて刺激的だった」とお褒めの言葉をいただいております)



就職セミナー第1回写真

本年度は、就職活動スケジュールとの兼ね合いを考え、2018年12月と2019年2月にセミナーを実施しました。

残念ながら開催日が、帰省時期・定期試験時期と重なってしまったこともあり、参加人数が例年に比べ少なくなりましたが、少人数だからこそできる濃い時間となりました。

実施後は、セミナーに参加した学生はもちろん、参加できなかった学生に対しても、事務局にて個別フォローを行っています。今年も良い報告がチラホラと来ています。

セミナーに参加し、社会人として活躍しているメンバーもかなりの人数になってきておりますので、そのメンバーの力も借り、就職支援の更なる質の向上を目指します。

諸先輩方の講師としてのご参加も心よりお待ちしております。



就職セミナー第2回写真



## 令和初の東京新人歓迎会、 過去最大人数にて開催致しました!!

大津良太 (51回生)

日時：2019年6月7日(金)19時半～

場所：品川駅 九州黒太鼓

参加数：66回生 37名、67回生 36名、東京支部役員他 15名 合計88名

東京支部では毎年6月に、その年上京した学生（今年は主に67回生）を、一年先に上京した“先輩”（今年は主に66回生）と共に歓迎する会を実施しています。また、この懇親会は、同窓会活動を学生に周知する場にもなっています。

同窓会長の高橋さんより、同窓会及び東京支部の概要や活動内容について、東京支部総会幹事長の飯沼さんより、支部総会の魅力や今年の企画について、私大津より、就職セミナーの概要、及び、学生の同窓会への活動協力について、それぞれ学生へ情報発信を行いました。

今年の新人(67回生)の多くは2000年生まれです。そんな新人達と約2時間を共にしました。巷では、「近頃の若いものは……」なんて言葉をよく耳にします。附設の後輩達も当然、「近頃の若者要素」もあるのですが、皆、昔から変わらぬ附設生らしい純朴さに触れることができるひと時でした。

と、偉そうなことを書いている私もまだ35歳。大先輩方から見ると、まだまだ若造ですので、2000年世代の学生と力を合わせ、同窓会を盛り上げて行きたいと思います。

最後になりましたが、幹事として協力してくれた、66回生石川くん67回生下山くん、そして、開催にあたり、カンパをいただきました諸先輩方にこの場を借りて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。





# 平成30年度 進路講座

昨年も14名の講師により進路講座が開催されました。その感想文の一部を抜粋しご紹介させていただきます。

## 第1講座

Medical Education: an endless challenge

吉田 素文 先生

## 第2講座

競争が嫌いな私になった大学病院の教授という仕事

高田 徹 先生

## 第3講座

医者になりたい？ 一人人口統計から将来を考える。

古賀 浩徳 先生

## 第4講座

国家公務員の仕事

野田 耕一 先生

## 第5講座

地図に残る仕事 一苦勞とロマンとヤリガイと一

塚本 敦之 先生

## 第6講座

君に向いてる仕事はないかもしれない

野田 英紀 先生

## 第7講座

デジタル時代のジャーナリズム

楨原 孝 先生

## 第8講座

医学部に入学したら？ 卒業したら？

守瀬 善一 先生

## 第9講座

世界を相手に仕事すること、「和而不同」のところで人生を決めよう

吉田 憲一郎 先生

## 第10講座

『ゼネコン営業で学んだこと』（人生は旅・本・人+映画）

成清 有示 先生

## 第11講座

やってよかった！ 大学部活動のススメ

日下 亜紀子 先生

## 第12講座

医学部を出たら何になれる？

西川 絹子 先生

## 第13講座

Keep thinking.

柴田 里子 先生

## 第14講座

〈命を守る〉児童福祉の現場のハナシ

足達 咲希 先生

## 吉田 憲一郎

先生（高校29回生／いちごアセットマネジメント株式会社 副社長／パートナー）

10月20日 第9講座 企業・金融

## 世界を相手に仕事すること、「和而不同」のところで人生を決めよう

### 講義の感想

まずは経歴のお話でした。私は海外での仕事に大変興味がありますが、日本の会社で研究生として渡米する道を知ったのは今回の講義が初めてでした。その後もアメリカで受けた刺激のことや人との出会いについて語られ、さらに魅力的だと感じました。先生は何か物事を選択するとき、刺激を求めてその道へ行ったとおっしゃいます。その好奇心は私も深く共感し、転職は楽しそうだから転職の多いアナリストも面白そうだ、という漠然とした進路の道が出来ました。また職

業については医者や弁護士などとは違い、日常生活では私たちにとってあまり聞き覚えのないアナリストという仕事ですが、実は日本の経済を支えているもの、そして今の日本では特に建て直しが必要とされていることを視覚的に分かりやすく理解することが出来ました。最後にメッセージとして、和して同せずの精神やチャレンジすることなど、改めてその重要さを感じました。

文：B組 平野梨沙

僕は今、自分の進路についてとても迷っている。そんな中、文系に進み世界でご活躍なさっている吉田先輩のお話が聞けてとてもいい機会となった。金融・経済の職業と聞くと銀行で働く人くらいしかイメージが浮かばなかったが様々な人生経験を積み、結果アナリストとして成功なさった姿は僕の考え方を広げた。若いうちから世界に目を向け、留学をして、たくさん刺激を受けたことが良い経験になったとおっしゃっていたので、国内だけでなく世界中に目を向けたグローバルな視点がこれから必要になると再確認した。今はまだ、自分が将来どのような仕事に就くのか、職とす



べきこととの出会いはいつなのかなど不安なことがたくさんあるが、「和而不同」の精神で偏った見方や考え方にとらわれず、若いうちにいろんなことに挑戦し経験値をたくさん得て、20代で起業できるような勢いのある若者に成長したい。**文：C組 吉富力良**

僕が今回の吉田先生の講演で感じたことは大きく分けて2つあります。

まず、アナリストという仕事についてです。アナリストという仕事をしている人はなかなか身近にはおらず、モヤッとしたイメージしかありませんでした。しかし、吉田先生が上司から「アナリストという仕事はアメリカではプロフェッショナルなんだよ」と言われたとおっしゃっていたようにアナリストという仕事の果たす役割の大きさを知り、アメリカだけでなく、日

本でも「アナリスト」という仕事について知られるべきだと思いました。次に、「一期一会」についてです。吉田先生がスタンフォードにいたときに知り合ったスコットキャロンの会社に20年以上の時を経て入社し、副社長になったというドラマのような話を聞き、人との出会いの大切さを感じました。僕も「一期一会」という言葉を大切にして、今回の講演から得たことを生かしていきたいと思います。**文：B組 瀬川弘毅**

アナリストという仕事は世界からとても評価されており、アナリストの中でもトップクラスと世界で認められた吉田さんは凄いご活躍をされているのだと分かりました。また、僕の憧れの海外経験を豊富にされたり、日本ではまだマイナーな「転職」をたくさんされたりと、とても行動力のあるお方だと思いました。そしてそのような様々な経験から学ばれた重要なことも教えて頂きました。例えば視野を広げること、現実を知ること、自分を信じることなど、これから大人へと向かっていく僕たちにとってとてもためになるお言葉でした。特に、「和而不同」の精神は世界ではとても大切と教えて頂き、附設にも通じていることなので、



この姿勢を心掛けるようにしたいと思いました。今日の日本は弱体化の道をたどっているといわれ、将来はどうか分かりません。僕はこのような日本を立て直せるように、和而不同の精神をもってしっかりと様々な勉強をしたいと思いました。**文：D組 宮崎泰至**

**日下 亜紀子** 先生 (高校57回生/CQ出版株式会社インターフェース編集)

**10月20日 第11講座 企業・出版**

## やってよかった！ 大学部活動のススメ

### 講義の感想

「やってよかった！大学部活動のススメ」。この講座では、東大理科一類に入り、バイオセンサーなどの研

究をされ、現在はCQ出版で技術系の雑誌の編集をされている日下先生に、大学の部活に入って社会で役

立ったことについて講演していただきました。先生の部活ラクロス部には、別の学年との縦のつながりを持つことやコミュニケーション力が身につく事などの利点があり、特に印象に残っている利点は「他人に変わってもらうのではなく自分が変わるしかないと悟れる」ということでした。それは私が思い浮かべていた体力がつく、終活に役立つ（その2つも講座の中には

部活動と聞いて真っ先に思い浮かぶのは、厳しい、帰りが遅くなる、大変、などのマイナスな要素が多かった。だから私は、今まで部活動というものに積極的に参加したことはない。しかし、今回日下先生のお話を聞くことで部活動の持つプラスな面に目を向けることができた。協調性やコミュニケーション、友達の輪の広がりというのは人見知りの私に足りない部分であり、社会人として生きていく上で必要不可欠な素質でもある。部活動への参加は他人との関わりのおおき

日下先生には、大学生活、特に部活動について教えて頂いた。これは、現在の僕達にも通じる部分が多く、興味を持って聞くことが出来た。また、部活動というテーマの中に様々なメッセージが込められており、有意義な時間を過ごすことができたように思う。

講座を聞いて特に印象に残ったことは、「思うだけでなく『伝える』こと」だ。この行動に移すというのが、僕達にとって難易度が高いように感じられるが、何か行動を起こさなければ、何も変えることができない。日下先生の話を知って、改めて行動の大切さに気

私は今まで部活動には一切入っていなかった。単純に興味があつた部が無かっただけだが、大学でも部活等に入らず、図書館で本を読んだりバイトしたりして四年間過ごそうと思っていた。だが、先生の講座を受け



出てきたのですが」といった事とは全く違ったので、部活を少ししかしたことのない私にとっては、部活も想像している物と違うのではないかと思わせるものでした。前に書いたように部活をほぼしたことはない私ですが、この講座で少し部活に興味を持つことができました。

文：B組 土井 薫

を学ぶための一番の近道だと感じた。他にも部活を通して得られるものが多いとこの講座で知ることができ、部活動への参加、コミュニケーションへの大きな後押しになった。また、部活動以外での日下先生の実体験を聞くことで、将来の目標を具体的に見つめなおすことができた。日下先生のお話を参考にして残り的高校生活、そして大学生活を悔いのないように過ごしたい。

文：C組 都 有里奈

付いた。

また、先生のお話の中に、「大学に行くと高校までの友人が散らばってしまう」というものがあった。皆目指すものが異なるので、進学などの理由で物理的に離れてしまうのは仕方がない。だが、個人的には卒業後も友達であり続けたい人たちがいるので、今のうちからもっと関係性を密にして、いつまでも友達であり続けられるように努力していきたいと思う。

文：D組 有村勇輝

て、少し考えが変わった。今まで部活にかかわってこなかったため（友達からの話は毎日のように聞いているが）知りえなかった部活に入ったことにより手に入れるものを知ることができた。あけすけに言えば、将来へのメリットを理解し、部活に関心を持ってかわるのもよいかと考えた。また、それとは別に部活時代のことを語る先生の楽しそうな様子に、部活に参加することへの興味があつた。今はまだ高校一年生なのだから、勉強は既に苦しいが、部活に入ってみるのもいいなと思った。今後は勉強に力を入れて、高2と大学での部活と両立できるようにしたい。そこで将来思い出になるような何かを見つけようと思う。

文：E組 名古優斗



馬場 智也 (63回生)

東京大学文学部社会学専修課程 4年

## 残り少ない大学時代、 自分のやりたいことを 精一杯やる時間にしたい !!

こんにちは。附設63回生、東京大学文学部社会学専修課程4年の馬場智也と申します。この度、同窓会誌に寄稿するありがたい機会をいただいたので、大学での生活について簡単に紹介したいと思います。大学時代を思い出すきっかけや、今後の参考になれば幸いです。

### ◆進路について

専攻する社会学では、ふたつのゼミを掛け持ちしています。

ひとつは東アジアの福祉社会学で、日本と韓国をはじめとする東アジアの近代化の相違についてが主な研究テーマです。日韓ふたつの近代化を比較すると、欧米主導の近代化モデルは、もはや東アジアでは通用しないという事実が見えてきます。東南アジアは今後どのように発展するのでしょうか？

もうひとつは、固く言うと理論社会学で、SNSや人工知能といった最新の動向について議論しています。例えば、いま盛んに煽られているシンギュラリティといった現象が本当に起こるのかといったトピックを、これまでの社会学の理論から考えてみようといった試みです。実はそれらの背景には西洋独自のユダヤ＝キリスト的な階級秩序があるはずで、舞台装置の裏側を覗いている感じがとても面白く感じます。

学問は何事もそうなのですが、社会学を学ぶことは、物事を相対化して考えることを助けてくれます。物事には「そうならざるを得なかった」因果があり、それを説明することが最も好奇心を満してくれるのではないのでしょうか。

真面目な話になりましたが、社会学は他と比べても人当たりのいい方が集まりやすく、研究分野もマスメディアから音楽まで自由で多種多様です。進路に迷っている方は頭の片隅にでも入れておいていただけると幸いです。

### ◆附設生との交流

高校時代の同級生との交流は未だにあり、なんとなく飲む相手が欲しい時や、帰省や旅行の時など、気軽に会える関係が続いています。

一時はメディアで盛り上がった、学歴の逆差別にうんざりし、それに伴って母校の教育方針に疑問符が付いたこともありましたが、それでもなお、あの気の置けない独特の空気感は、中高時代を密に過ごした友達とでしか感じられないのだと、持っている繋がりを大事にしていきたいと思えます。

今回寄稿したきっかけも、附設就活セミナーという、同窓会主催の会に参加したのがきっかけです。商社や広告、コンサルなど様々な業種のOBOGの方々が、就活生の悩みに対して本当に親身に相談に乗ってくれます。僕自身、就活は本当に苦手だったのですが、同じ部活だった先輩の会社から内定を頂いたので、余裕を持って大学生活を送れました。主催してくださった方々には、本当に感謝しています。

### ◆終わりに

歳を重ねるほどに、毎日友達と話し、勉強や部活に没頭していた中高時代が、唯一無二のものだと実感します。そしておそらく、今の大学時代も別の意味で唯一無二のものになるかと思っています。残り少ないですが、自分のやりたいことを精一杯やる時間にしたいと思っています。





## 白石 優空

(高校64回生・中学42回生)

東京大学教育学部 4年

# 私の学生生活／ホーチミンの教育事情

こんにちは、附設高校64回生(中学42回生)の白石優空です。現在東京大学教育学部4年に所属し、卒業を前に最後の学生生活を謳歌しています。貴重な機会を頂いたということで、本稿では私が大学3年夏に参加したベトナムでのインターンシップについて紹介します。

企業が学生を募集して10日間ベトナムに連れて行き、現地に進出する日本企業とマッチングして課題解決を行うという内容のインターンだったのですが、私はホーチミンで現地のベトナム人と日本人の子供向けに学習塾を展開している企業に配属され、新しい教育コースの策定を行いました。

ベトナムの中でも教育意識が高いホーチミンでは受験競争が激化しています。一方でベトナムでは学校教師が放課後に塾のような形式で高度な勉強を教える制度が成立しており、日本と同形態の塾では学校教育との差別化がしにくいという課題がありました。様々な可能性を模索した結果、私たちはベトナムで日本のものづくり精神がリスペクトされていること、学校の放課後教育では詰め込み中心の教育がなされていることなどを踏まえ、日本の文化(折り紙、万華鏡、琴など)の工作を通じて受験にも通用する本質的学習能力を育む創造性教育“TSUKURU(創)”という新コースを提案、プレゼンしました。

塾の財務状況との調整、言語が通じない中での顧客調査、ベトナムの国民性やニーズを意識したプレゼン作成など困難なことは多くありましたが、結果的に私たちのプレゼンは社長の評価を頂き、プロジェクトとして成立することになりました。帰国後に行われた試験的な授業の結果一定数の集客も見込まれ、今年の4月から実際にコースとして開講されています。

コース内容策定の中で、6年間のゆとりある時間を通じて本質的な学習能力が育まれる附設の教育を何度も振り返ったことを思うと、どうも私の中の正しい“教育像”には附設での経験が色濃く反映されているようだと感じました。

遊んでばかりの学生生活でしたが、たまには真面目なことに取り組んでみるのも悪くはないと感じた一夏の経験でした。

(ちなみに本経験はリクルートグループのGLIPというインターンです。もし興味がある方は調べてみてください)

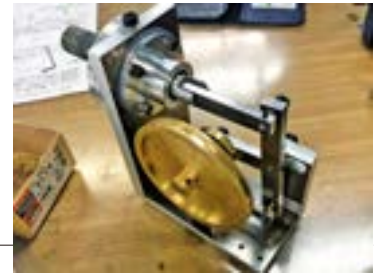




有馬 颯 希 (65回生)

東京大学工学部機械工学科3年

## 「とりあえず東大」のその後



高校65回生、東京大学工学部機械工学科3年の有馬颯希と申します。入学三年目にして、やっと変わろうとしている私の話をしたいと思います。

「東大に入ると、東大生に沢山会えるよ」

これは、受験期に家庭教師の先生から言われた言葉です。

当時の私は、やりたいことは特になかったのですが、何かやりたいことが見つかったときに勉強・成績を理由に諦めたくないという動機で、とりあえず東大を目指していました。その消極的な動機では受験勉強が続けられず、10月頃の面談で、なんか動機になるようなことはありませんか？ と家庭教師の先生に相談しました。他人に動機を考えてもらうなんておかしい話ですが、先生は真剣に考えてくださり、1時間ほどずっとその話をしていました。そして、

「あ、でも、確実に言えることは、」

と最後に言ってくださったのがその言葉でした。

実際に東大に来て、様々な人に会いました。そして、彼らの過去の話聞いて気付いたのは、ものすごい努力をした時期があり、その経験などから自分の考えを確立し、将来何をしたいかを考えているということでした。東大生と話すたびに、私の知らない世界や考え方がこんなにもあったのかと驚きました。将来の話から、私のやりたいことも絞ることができ、やってみたいと思えるものも見つかってきました。

沢山会えた東大生の中で、私が特に影響を受けている一人を紹介します。

たまたま座る席が近くて仲良くなった矢口君は、11年以上も蟬の研究を続けています。計画性なく生きてきた私とは、生き方がまるで違って目標をもって進んでいくタイプ。自分の考えを積極的にアウトプットでき、会話や議論で中心となる人です。感性デザインのゼミの主催者でもあり、専門分野を超えた研究も進めています。

最初は矢口君の話を、すごい人が凄いのことをやっている、と、自分とは全く違う世界の話として聞いていました。何か一緒にやらないかと誘われても、応援するだけで、できる気がせずに断ってばかりいました。しかし、リアルタイムでの話や悩みを聞いているうちに、私も矢口君のしていることに少しでも携わりたい、研究というものをしてみたいと、思うようになりました。このことに気づくのに半年かかってしまいましたが、アピールして、夏から矢口君の感性デザインの研究に参加させてもらえることになりました。

こうしてチャンスを掴めたのは、何回も矢口君と会えたからです。そして、日頃の東大生との会話で自分のやりたいことと向き合えたからです。本当に、東大に入ってよかったと思っています。

研究室選択や院試、就活など、まだまだ進路選択は続きます。直接選ぶのは環境ですが、そこにどんな人がいるのか、自分はどんな人に会いたいのかを考えて選んでいきたいと思っています。





**熊本麻実** (64回生)

熊本大学医学部 4年

## 熊本大学の学生生活について

こんにちは。高校64回生、熊本大学医学部4年の熊本麻実と申します。中学女子1回生と一緒に入学をしました。小中ともに公立だった私には男子が圧倒的に多い環境に圧倒されましたが、すぐに慣れ、10月にはハロウィンにかこつけてお菓子をばらまいたり、クリスマスにはツリー持参で自由奔放に過ごしていました。今はどうなっているんでしょう？ 1度しかない高校生活なので、とりあえず楽しいことをやって楽しい思い出をたくさん作ってみたいです。

さて、大学生活ですが、熊本大学は医学部が比較的繁華街に近いこともあり、授業後、友達とハッピーアワーによく繰り出しています。また、家も一人暮らしの子は徒歩圏内に住んでいるので、終電を気にせず飲めるのが熊本大学のいいところです。

しかし、テスト前は忙しく、3年生にはポリ前試験といって3週間毎日1つずつテストが続くというなかなかの鬼畜なスケジュールが組まれています。テストがまとめてある分、普段はのんびり遊んだり、バイトをしたりと普通の学生生活です。

熊本では10月の同窓会、3月の卒業生の追いコンの2度の集まりに加え、片渕先生がご自宅で開いてくれる通称片渕会があります。年に3回も附設で集まる機会があり、附設のつながりの強さを感じることができません。50年前の附設の話から、最新の附設情報など、思い出話は尽きません。聞いているだけでも懐かしい気持ちになります。男ばかりなところも高校時代を思い出させてくれます（笑）

最後はみんなで肩を組んで校歌を熱唱します。しっかり3番まで。当時から校歌をうろ覚えだったため、同窓会前に歌詞を調べていっています。

さて、高校を卒業してもう4年がたちますが、今でも長期休みの際には高校の友人とご飯に行ったり、旅行に行ったりとその繋がりは健在です。大学の友人と遊ぶのも楽しいのですが、附設の人たちに会うとその独特の雰囲気懐かしさと居心地の良さをおぼえます。平成最後の日も附設の友人とレンタカーを借りて黒川温泉に行きました。そしてその車を駐車場でぶつけました。フリードでした……。

悲しみのフリード。伝わる人は私と同世代です（笑）

先輩たちは実感されていると思いますが附設のつながりは一生ものです。卒業したからといって希薄になったりせず、むしろいろんな世代の方と繋がりが濃くなっていっているように感じます。これからもこのつながりを大切にしていきたいです。

拙い文章でありましたが、寄稿を終えさせていただきます。





# 附設合格状況

附設高等学校進路指導部長 **城戸 清**

## 東大合格数、福岡県初のトップ10

平成31年度は、国公立大学に現役生が115名(防衛医科大学校2名、防衛大学校2名、産業医科大学4名を含む)、浪人生75名(防衛医科大学校4名、防衛大学校1名、気象大学校1名、産業医科大学4名を含む)が合格しました。合計190名は、昨年の187名から3名増です。防衛医科などを除く国公立の現役生は107名で、昨年と同数の過去最高でした。

東京大学が現役生36名、浪人生14名で合計50名、九州大学が現役生27名、浪人生14名で合計41名、京都大学が現役生8名、浪人生3名で合計11名、大阪大学が現役生3名、浪人生4名で合計7名、佐賀大学が現役生6名、浪人生1名で合計7名などが主なものです。

東京大学は、現役生36名は過去最高、浪人生は昨年の現役時に18名、合格率三人に一人という厳しさを克服して、14名合格。50名以上は、昭和63年度の55名(ダブル合格)、平成2年度の51名以来の三度目で、「福岡県の高校がトップ10に入るのは初」(週刊朝日3・22号)でした。今年の志願者は昨年から十数名増えた程度でしたが、合格率は6割で、昨年の合格率の二倍弱と予想を超えました。今年も現浪、文理とも「合格間違いなし」という者が少なく、厳しい結果も覚悟していましたが、一昨年27名、昨年23名と二年分の反動のように感じます。27名も増えたので、三月に電話取材を受けました。「19年卒の生徒は、中学から女子が入学して共学化された1期生。まじめにコツコツ頑張る女子が入って、学年全体の雰囲気が変わりました。理系の女子は医学部志望が多いのですが、文系は東大志望者が多くいました。英語をしっかり勉強して力のある女子が文科類を中心に合格し、学校全体の合格者数を押し上げました」(サンデー毎日3・31号)。

## 今春の医学部医学科に多数合格

国公立大学の医学部医学科が現役生41名、浪人生24名で合計65名(産業医科大学8名を含む)、昨年と同数でした。現役生5名増で、浪人生5名減、昨年は17名減でしたから、浪人生は減少傾向です。九州大学25名、佐賀大学6名、山口大学と熊本大学4名、長崎大学と鹿児島大学3名、大分大学と宮崎大学1名、それと産業医科大学で、九州山口55名です。東北大学と大阪大学2名のほか、山形、山梨、島根、岡山、広島、大阪市立に1名ずつでした。平成14年度入試から17年間、東京大学か京都大学の合格者がいましたが、残念ながら今年度は途切れました。なお、国公立を日程別に見ると、前期・推薦が48名で昨年より2名減、後期が9名で2名増と昨年並みでした。

本校の卒業生は約200名で、四分の一の約

50名が文系、残り約150名が理系、その半数が医学部医学科志望というのが例年の傾向です。国公立前期に出願した現役生は、昨年は60名弱と少なく、今年は70名強に戻りました。男子の合格率が高く、女子も前期出願者の半数の11名が進学です(私立1含む)。ただ附設中卒の女子生徒に限ると、合格率は3人に一人と厳しい。高いレベルの理数勝負となる九州大学では、現役女子合格者は二年連続0でしたが、今年は5名合格、一浪生女子も3名合格と健闘しました。

将来にわたって学ぶ向学心を持っていて、労を厭わず他人の役に立つ仕事をしたいとの希望に加え、保護者に医療関係者が多いことから、医学科希望が多いのは自然なことです。この10年分の国公立医学部(産業医自治医を除く)の合格数は、現役生303名、浪人生298名と平均30人ずつで、現役合格率が上がってきています。可能な限り現役で進学できるよう、手助けをしようと努力しています。

## 校内模試が進路指導の要

高2までは日々の学習を年間5回の定期テストで確認しますが、高3と浪人生希望者は年4回の校内模試を受けます。個別の大学入試に対応した記述形式の模擬試験で、平均点は4割、4回平均で5割を超えれば、今年は4割5分でも東京大学、京都大学、九州大学医学部などの難関大学に高い確率で合格できます。

問題作成と採点には、本校入試同様、ほぼ全教員が参加し、成績検討会にも出席します。高3の授業がなくても、問題作成と採点での指導です。高3になったときに実力がついているよう、高2以下の生徒の学習指導に活かしていきます。

## 今年も全力で取り組む覚悟です

些細な手抜きを許さない学年の雰囲気が、例年より少しずつよかったセンターと模試の成績を、大きな飛躍に変えてくれました。昨年の「厳しかった東京大学、難関の医学部医学科などを教訓に」、3年間・6年間の生徒、先生方、保護者の信頼関係の上に築かれた結果でした。

再来年春に入試制度が変わりますが、現役合格優先で妥協せず、生徒一人ひとりが第一志望を実現することを大切にします。この春の東京大学を始めとする飛躍的な結果に励まされ、合格できる大学ではなく、志高く進学したい大学を目指してほしい。授業と特講で真剣に学び、校内模試で現浪が切磋琢磨して実力をつけてほしいと願い、全力で指導に取り組む覚悟です。

表Ⅰ 国公立大学合格者数 (単位:人)

平成30年度		平成31年度	
東京	23	東京	50
九州	41	九州	41
京都	13	京都	11
大阪	11	大阪	7
東京工業	8	佐賀	7
長崎	8	山口	5
熊本	7	長崎	5
北海道	6	熊本	4
横浜国立	4	鹿児島	4
その他	66	その他	56
合計	187	合計	190

国公立大学の「その他」は、大学校、自治医科、産業医科を含む

表Ⅱ 私立大学合格者数 (単位:人)

平成30年度		平成31年度	
慶應義塾	19	慶應義塾	27
東京理科	19	早稲田	26
中央	18	東京理科	23
早稲田	16	福岡	15
久留米	15	立命館	14
近畿	13	中央	13
福岡	10	同志社	11
立命館	9	明治	9
明治	10	近畿	9
その他	57	その他	53
合計	186	合計	200

私立大学の「その他」は、自治医科、産業医科を含まない

表Ⅲ 医学部医学科合格者数 (単位:人)

平成30年度		平成31年度	
九州	20	九州	25
長崎	7	佐賀	6
熊本	6	山口	4
大阪	3	熊本	4
山口	3	長崎	3
京都府立医科	3	鹿児島	3
山梨	2	東北	2
広島	2	大阪	2
東京	1	大分	1
佐賀	1	宮崎	1
その他	17	その他	14
国公立計	65	国公立計	65
久留米	15	福岡	9
福岡	8	久留米	8
慶應義塾	1	慶應義塾	2
その他	23	その他	10
私立計	47	私立計	29
防衛医科	7	防衛医科	6
合計	119	合計	100

国公立大学の「その他」は、自治医科、産業医科を含む



生徒会長 坪山 倫  
(高校68回生)

## 変わったもの、変わらないもの。

高校68回生で生徒会長を務めさせていただいていた坪山と申します。この度附設同窓会報に学校を代表して寄稿させていただけるということで、このような機会をいただき、とても光栄に思います。僕からは、附設の“今”を少しでもわかりやすくお伝え出来たら、と思っております。

早速ですが、附設卒業生の方々は今年の本校出身者の東大合格実績をご存知でしょうか。知られている方も多いと思われそうですが、今年附設からは50人もの東大合格者が出ました。これは普段からの先生方の質の高い授業や熱い指導のおかげだと言えるでしょう。同窓生の皆様が在学中から、この学校の授業の質の高さや先生方の教育熱心さは、附設高校のひとつの大きな性格、そして強みとして変わってはいないはずです。

ほかに、皆様の在学中から変わっていないであろうと僕が個人的に思っていることがあります。それは、生徒一人ひとりの個性の強さです。今この学校には、本当にたくさんの、強烈な個性を持った生徒たちがいます。そして昔の附設にもこんな個性あふれる人たちがたくさんいたんだろうな、ということは、僕自身一度現役生徒会長として附設同窓会に出席させていただいたときに、容易に想像できました。附設という空間は、いまでも、そんな多様な生徒たちの個性をすべて受け容れてくれるような、とても心の広い場所です。そしてそれらが混ざり合い、溶け合うことで、この学校でのいい意味で濃い学園生活が完成しているのです。

ここまで変わらない附設の特徴について書いてまいりましたが、もちろん同窓生の皆様が在学されていた時から今に至るまでに変化したこともたくさんあります。同窓生の皆様のなかでも特に回生の数がお若い方々からしてみれば、男女共学の高校生活など、想像するのさえ難しく感じられるかもしれません。いまの附設は完全に共学化したことで、男女が等しく学校行事や部活動に参加する体制が出来上がっています。また、僕などからすればあまり喜ばしい話ではありませんが、体育祭や文化祭など生徒主体の大きな行事が終わったあとには、基本的にたくさんカップルが生まれています。ちなみに僕は学習に集中したいと思っております。

また、学校のシステム以外にも大きく変わっているところはたくさんあります。たとえば学校内の施設です。僕は一度附設の同窓会に参加させていただいたときに、僕よりも40個ほど回生のお若い方と、附設の変容について少しお話させてもらったのですが、その時にその方から「今の附設に存在して、我々の時代にもあったものなんていこいの森の丸い石のベンチぐらいしかないよ！」という言葉聞いて、本当に驚きました。生徒会室に保管されている過去の卒業アルバムの中の昔の附設の写真を見ても、建物はすべて今と違いますし、時の流れというものを感じます。また、アルバムの中でお若い先生方も、少し髪の毛が減ったり白髪が増えたりと様々ですが、いまでも教鞭を執られていることを思うと、とても感慨深くなります。

さて、つらつらと附設の変わっていないところ、そして大きく変化したことについてお書きしてまいりましたが、どう感じられたでしょうか。僕からひとつ言えることは、今の附設は、皆様が在学していた時代の大切なものを残しながらも、新しい風を寛容に受け止め、伝統と革新のバランスを取りながら歩みを進めているということです。形あるものは失われやすいかもしれませんが、「附設生」の中にある一種の魂のようなものは、確実に継承されています。稚拙な僕の文章ですが、これを読んで少しでも懐かしい！だったり今の附設が見てみたい！と思われた方がいてくれると僕自身幸いです。ご都合が合えばぜひ文化祭や体育祭にも足を運んでみてください。この学校の変ったもの、そして変わらないもの、すべて感じられると思います！



文化委員長 川口 竜典

## 男く祭 2019 Re: set

みなさんはじめまして。第49回文化祭実行委員長を務めました川口竜典です。今年の文化祭は1週間ほど早かった去年から元に戻って、1日目、2日目がそれぞれ4月27日、28日に行われました。では早速、今回の文化祭を振り返って紹介したいと思います。

今年の文化祭の準備はまず、去年では「一新附嵐」とあったように、テーマを決めることから始めました。またそれに付随して、コンセプトも決めることにしました。コンセプトというのはテーマを文化祭において表現するための手段となる、統一のイメージです。僕としてはこのテーマとコンセプトはすぐに決まるだろうな、と思っていたのですが、何度も何度も生徒にアンケートをすることになり、意外と時間がかかりました。それはやはりテーマやコンセプトというのは文化祭の核となるからでしょう。加えて、多種多様な「附設生」をまとめる大変さを知りました。

そして決まったテーマが「Re: set」、コンセプトが“Apple”です。「Re: set」には、これまでの文化祭を形式的に繰り返すのではなく、一旦ゼロへと戻し、改善点を検討し、先輩方の文化祭の伝統と、現在の時代や流れならではの新たな試みにより文化祭を再構築しようという意味を込めています。「Re: set」の「:」には「Re:」がメールの返信を意味するように、附設の文化祭の伝統に対する僕たちの返答という意味も込められています。また“Apple”には、アダムとイヴの林檎から、文化の始まりという意味を込めています。

平成という一つの時代から令和という新しい時代へ向かう僕たちは、このようなテーマのもと一生懸命に準備に取り組みました。ここで、今年の文化祭の1日目、2日目を全部は紹介できませんが、大まかに紹介させていただきます。

1日目は、中央ステージではもちろん、新設した中庭ステージでも企画が行われました。また校内の企画は大幅に数が増え、附設の入試の予想問題の配布などから自作のジェットコースターまで、粒ぞろいの企画で満載になりました。さらに今年はグラウンドを有効活用することにし、自分達で考えたミニゲームをスタンプラリー形式で回ってもらうシステムにしたところ、当日は大盛り上がりでした。

2日目は、久留米シティプラザでステージの反響板を全て取り除いたことによって充実した照明などの効果や、演目の間に取り入れた演劇により季節、そして平成から令和への時代の「Re: set」を表現しました。

今から振り返ると、準備期間、そして文化祭当日はあっという間で、本当に終わってしまったのかという感じがします。また、時代の境目で僕達が「Re: set」という時代の境目をも意味するテーマで文化祭を運営できたのは非常に嬉しいことだと思っています。

第49回文化祭は終わりました。しかし、文化祭2日目でこのような言葉がありました。「終わりは始まりでもある。」次の文化祭が始まります。来年、新たに「Re: set」する文化祭をぜひご覧ください。



---

# 2019年度 広 告

---

回生有志広告	P45
1～20回生	P55
21～30回生	P62
31～40回生	P91
41回生～	P118

## ■ 広告掲載の御礼 ■

同窓会報の発行にあたり、多くの同窓生のみなさまから広告協賛金のご協力をいただき、ありがとうございました。

あらためて厚くお礼を申しあげ、みなさまのさらなるご活躍とご発展をお祈り申しあげます。

同窓会 会長 **高橋友作** (19回生)

副会長(広告担当) **中村和徳** (27回生)

同窓会ホームページの「ご利用の手引き」です

**保存版**

# 同窓会WEB名簿ご利用の手引き

同窓会ホームページのアドレスが変わりました！

**「HPの新しいドメインはhttp://fusetsu-dosokai.com/です」**

## IDおよび初期パスワードのお知らせ

同窓会WEB名簿にアクセスして、以下のID・パスワードでログインして下さい。  
ログイン後、現在登録されている情報をご確認いただき、必要な変更を行うことができます。

**ログインID：旧ログインIDと同じ**

**パスワード：旧初期パスワードの最初に「fst」を加えた8文字**

※ログインID、パスワードがご不明な方は「お問い合わせ」メールフォームからご連絡ください。

- 1** ホームページのWEB名簿  
ボタンをクリックして下さい。



クリック!!

- 4** ご自身の登録情報の確認と変更  
開示の可否はご自身でお決めください。



- 2** 「会員ID／パスワード」を入力後、  
ログインをクリックしてください。

初回ログイン時には、メールアドレスと  
生年月日の登録が必要になります。

- ✓ メールアドレスと生年月日を入力された後、  
すぐに確認メールが届きますのでご確認ください。
- ✓ ログイン後、会員ID／パスワードは自由に  
変更できます。
- ✓ 万一、変更したパスワードを忘れてしまった  
場合は、登録済のメールアドレスと生年月  
日で即時に再発行を受けることができます。
- ✓ セキュリティはシステム管理者にて十分に  
守られますが、各会員におかれましても、ご  
自身のID／パスワードは確実に保管してい  
ただきますようお願いいたします。

- 住所、勤務先などの情報はご自身でご変更いた  
だきますようお願いいたします。
- 登録情報をどの範囲の会員に開示して良いかは、  
ご自分で設定してください。「全同窓生に公開」「同  
期のみ公開」「非開示」の設定ができます。

- 3** 会員専用サイトでは主に以下のような  
機能があります。

- ✓ ご自身の登録情報の確認と変更
- ✓ 同窓生の検索・閲覧 (WEB版同窓会名簿)  
同窓生の情報のうち、開示されたものを検索・閲  
覧することができます。

- 5** WEB版同窓会名簿の閲覧

卒業年・期数、氏名、住所、勤務先、利用している  
SNSを検索し、本人が開示した情報を閲覧できます。



メールアドレスをお持ちでない方は、  
FAXやお電話で代理入力しますので  
同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL:0942-44-2222 / FAX:0942-44-8257

## ●同窓会室の紹介●

## 整備、拡充された、同窓会室・後援会室

同窓会副会長 中村和徳 (27回生)

1号館1階の旧事務室の後に、同窓会室と後援会室が一室に一体的に整備、拡充されました。同窓会と後援会のより一層の連携、協力により、卒業生と在校生とのさらなる交流が広がることを願っております。同窓生OBが在校生に色々とアドバイスできる場にもなるでしょう。母校に来られた折には、是非お立ち寄りください。



同窓会から毎年卒業生に贈られている卒業記念品のペーパーウエイト▶



## 同窓会からのお知らせ

同窓会に対する各種問い合わせは下記のいずれかでお願ひします  
(HPのURLが変わりました)

【電話】0942-44-2222 【FAX】0942-44-8257 【メール】<http://fusetsu-dosokai.com/contact>

【同窓会ホームページ】<http://fusetsu-dosokai.com/> 【WEB名簿】<https://pu.palsyne.net/s-fusetsu/>

【同期の回生代表世話人】P.31ご参照 回生代表世話人のメアドは同窓会にお問い合わせ下さい。

※住所変更などの連絡はメールのほか、電話でもFAXでも受け付けしております。(本文P.128ご参照)

※ご同期などの物故者に関する情報をお持ちの方は同窓会までご連絡下さい。

## ◆編集後記

高橋会長体制になり、2年目となりました。ホームページの刷新や新しいWEB名簿による名簿整備などの同窓会活動のインフラ整備に注力して参りました。8月発行に変わった同窓会報もこれで6回目を迎え、今年も皆さまのご協力により、更に充実した内容の130頁の同窓会報が出来上がりました。

昨今、配送料などが値上がりしており経費負担も増えています。これをカバーするために、広告掲載ご協力の呼びかけを一層強化しました。今年は、福岡・東京の両総会幹事学年(30回生、36回生)の皆さんが、同時に協力し合って広告募集を行った結果、多くの広告協賛をいただくことができました。広告掲載にご協力頂きました皆様、総会幹事学年の皆様、回生代表世話人の方々に厚く御礼申し上げます。卒業生の同窓会員はもちろん、母校の先生方、同窓会員である高校在校生ならびにその保護者の皆様にもご理解を深めていただきたく、内容の更なる充実に努めて参りたいと思いますので、今後ともご協力ご支援のほど宜しく御礼申し上げます。

最後になりますが、本同窓会報にご寄稿いただきました皆様に改めて厚く御礼申し上げます。



広報・広告募集委員長  
中村和徳(27回生)

## 久留米大学附設高等学校同窓会

広報委員会：中村和徳(27)・小田恵介(19)・橋本和幸(20)・安部政信(20)・砂場泰浩(21) 中村尚昭(22)・高木裕康(28)・大津良太(51)

広告募集委員会：中村和徳(27)・小田恵介(19)・岸 哲司(23)・実藤光二郎(26)・吉本幸治(28) 佐藤 茂(30)・高尾野健(35)・飯沼良介(36)

協力：阿部健太郎先生・池ノ都辰也先生・中村昌子(事務局)・長野佐知子(メディア総研)